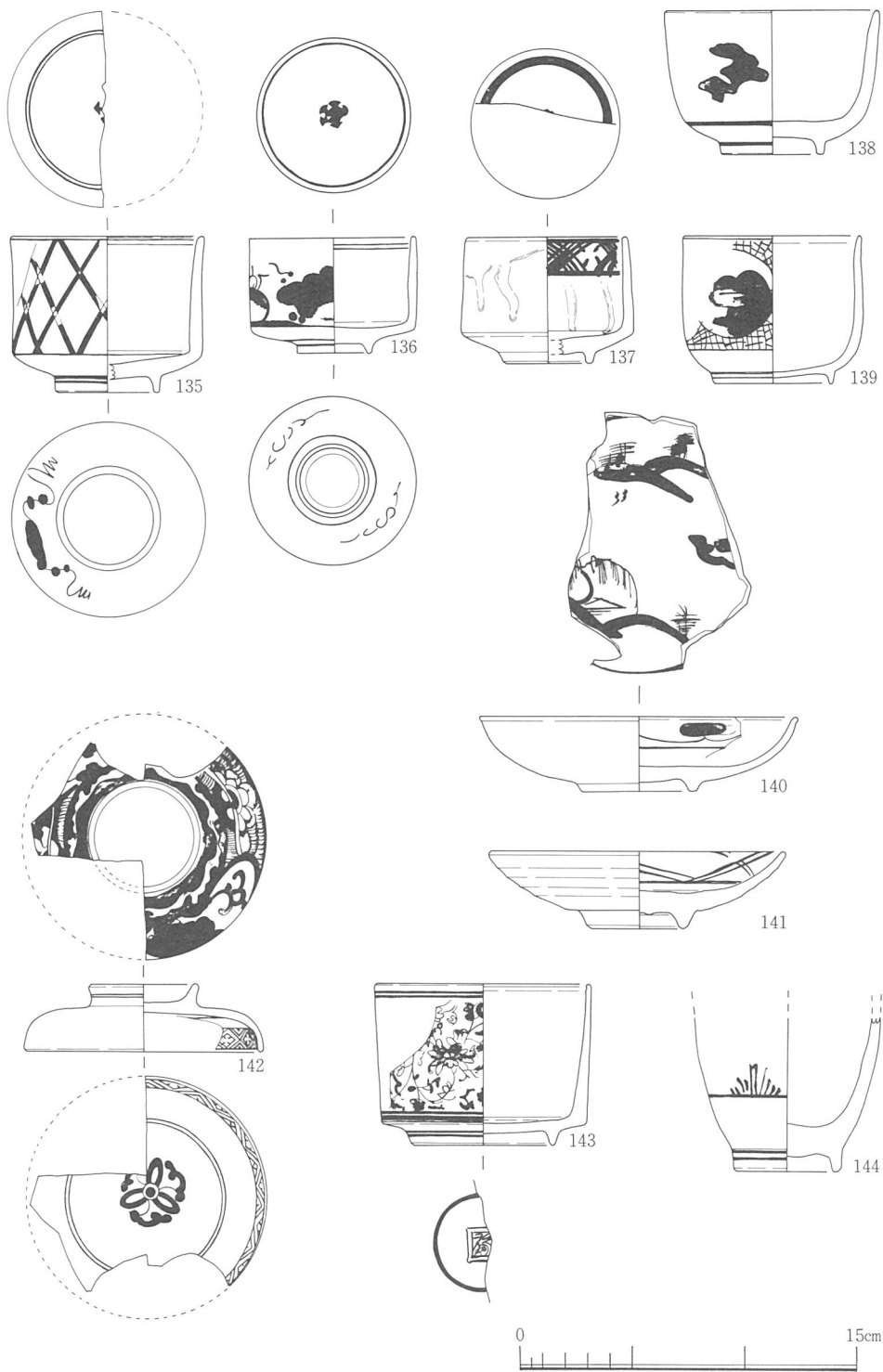
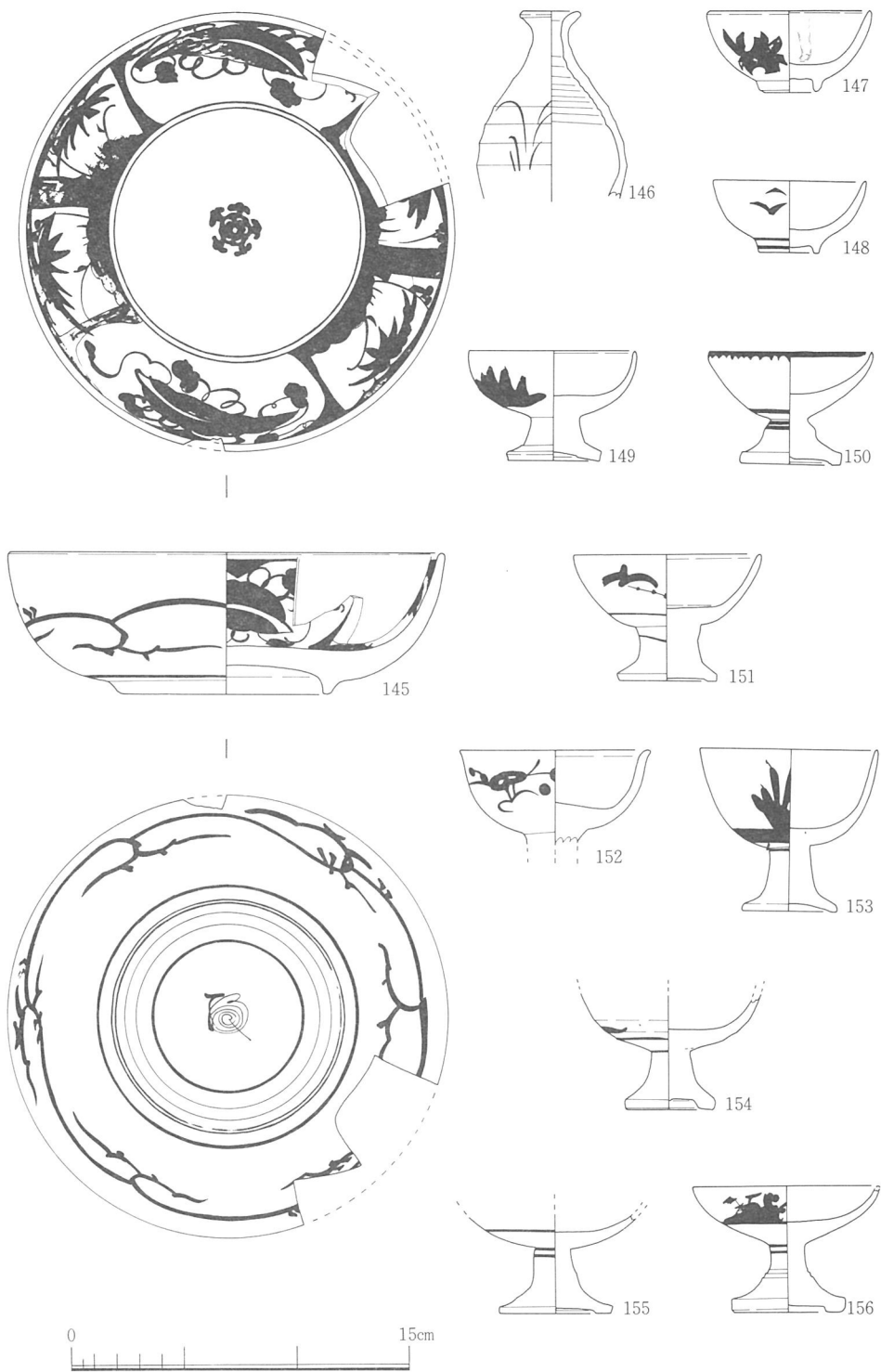


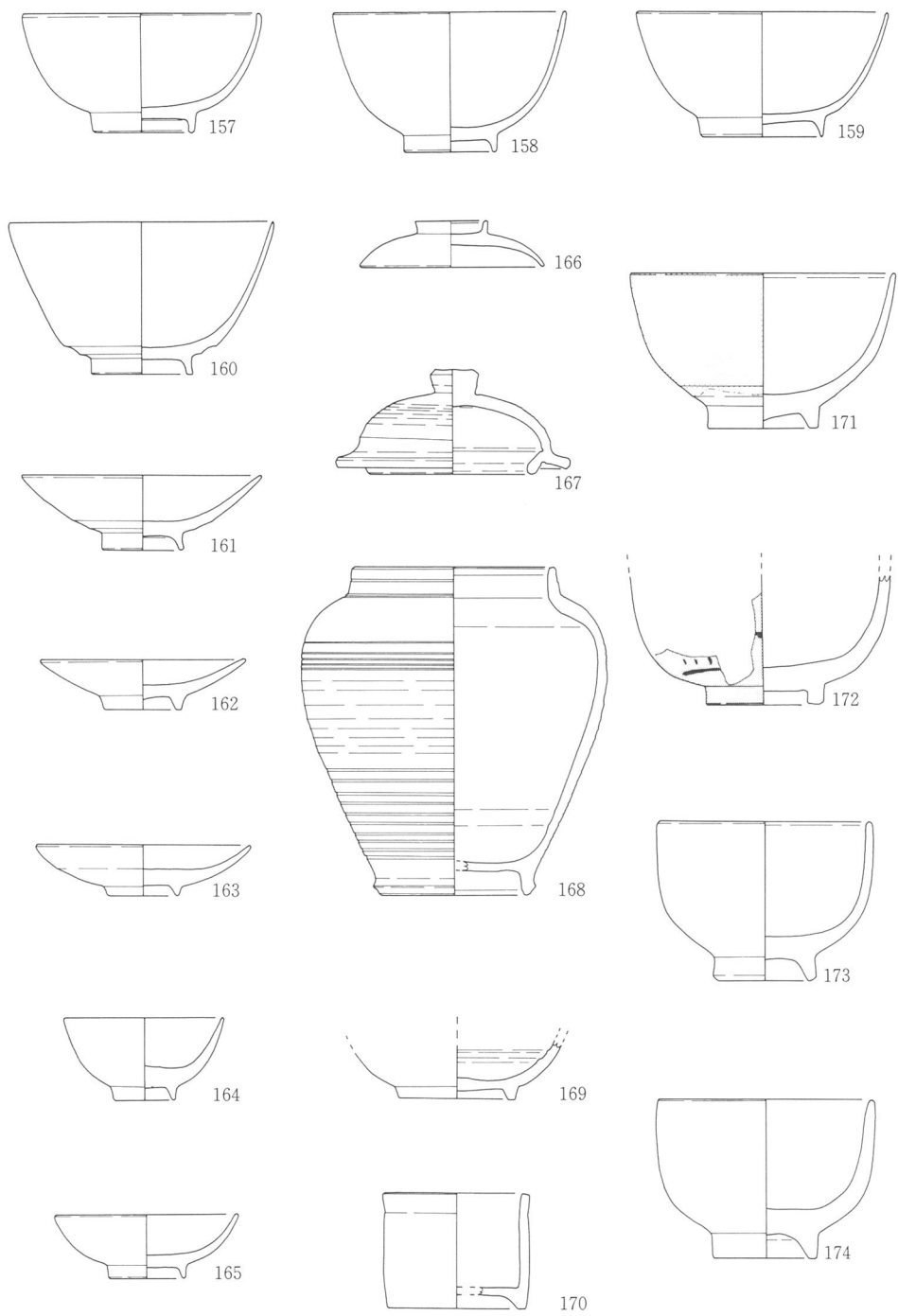
第32図 包含層出土遺物（3）



第33图 包含層出土遺物（4）



第34图 包含層出土遺物(5)



第35图 包含層出土遺物 (6)

体部に牡丹唐草文を施す。口縁端部内側の釉は削りとっている。底部高台内に圏線と「角福」銘をもつ。

(144・146)は徳利である。(145)は大きい鉢である。内面体部の側面は四つに区画した部分に竹などの文様が描かれる。外面体部側面に唐草文を配する。

(147・148)は小杯である。二点共に内面は無文で外面体部に文様をもつ。(149～156)は高脚杯であり、杯部の浅いもの(149～151)と深いもの(152～154)杯部が皿状のもの(155・156)がある。

(157～170)は白磁である。そのほとんどが伊万里の製品と思われる。(157～160)は碗であり薄く丁寧な造りのものばかりである。

(161～163)は皿であり、(161)は(160)の碗とセットになると考えられる。(162)は内面見込みを輪状に削りとりおりの碗や皿は全面施釉であるが、この個体だけは内面より外面体部下半までしか施釉されていない。(164・165)は小杯であり、(164)は底部が厚い。(166・167)は蓋である。(168・169)は壺である。(167)の蓋と(168)の壺はセットである。蔵骨容器に使用されたと思われる。薄く丁寧な造りで外面体部に細い削り痕を残している。

(170)は内面のみ施釉されており、外面は露胎のままである。蓋であろうか。

陶器 (第36・37・38・39図、図版15・16・23)

(171～174)は碗である。(171)は外面口縁部より体部下半までソーダ色の釉が施されている。内面は白濁釉が掛かる。(172)はねずみ色の釉を全面施釉し高台畳付部分の釉を削りとっている。外面釉葉下に鉄絵を施す。全面に粗い貫入あり。(173・174)は灰釉が全面に掛かり、高台畳付の釉を削りとっている。全面に細かい貫入が入る。

(175～180)は唐津焼である。(175～177)は刷毛目唐津の碗である。(178～180)は皿である。3点共に内面見込みの釉を輪状に削りとっている。高台は全て削り出しであり、釉は外面高台脇まで施される。(178)は内側面に鉄絵を描く。

(181～185)は京焼系陶器の碗である。内面に鉄絵を中心に、舟(181)花文(182)竹(183)トンボ(184)の絵付けがなされる。釉は外面高台脇まで施され、細かい貫入がはいる。底部高台裏にスタンプをもつもの(181)がある。

(188～193)は瀬戸・美濃系陶器である。(188)は黄褐色の釉が内面より外面体部下半まで施される茶碗である。(189～192)は筒形の碗で、口径が器高より広いもの(189・190)と口径が器高とほぼ同じもの(191・192)の2タイプある。4点共、淡褐色の素地

に灰釉を施したもので、(189・190)は鉄絵が外面体部に施されている。(191)は外面体部に鉄釉を帯状に施している。(193)は灰釉の小杯である。釉は外面高台脇まで施される。

(186・187)は産地不明であり、(186)は内面より外面体部下半まで鉄釉が施される。

(187)は内側面に菊の立体的な貼付け文をもつ。釉は淡褐色で、内面より外面口縁端部まで施される。

(194~197)は甕であり、胎土は4点共精良である。(194)は刷毛目唐津であり、口縁端部内側より外面体部下半まで二単位の波状を刷毛目で描いている。外面の露胎部分はヘラ削りで調整され、暗赤褐色に発色している。

(195~197)は大谷焼である。(195・197)は外面に黒褐色の鉄釉が施釉される。

(196)は外面に暗茶色の釉が施される。

(198~200)は陶器蓋である。(198)は外面は褐色の釉を波状に刷毛塗りし、内面は暗褐色の釉を施釉している。口縁端部よりかえり端部は釉を削り取っている。胎土は灰色に発色し、精良である。(200)は貼付けつまみをもち、外面には茶色の釉を施す。(199)はトチリ梶の蓋である。

(201・202)は鉢である。(201)は唐津焼の片口鉢で緑褐色の釉が内面より外面体部上半部まで施される。外面にねずみ色の釉で波状文が描かれる。露胎部分は化粧掛けがなされる。(202)は瀬戸焼で透明感の強い灰釉が内面より外面体部下半まで施される。色調は灰白色を呈し、胎土はやや軟質である。高台裏に墨書がみられる。

(203・204)は備前焼である。(203)は徳利で外面肩部にヘラ描きがみられる。(204)は建水であり口縁端部より外面底部脇まで泥漿が塗られる。

(205)はビンダライである。外側面に葉文を描く。胎土は淡黄色でやや軟質である。

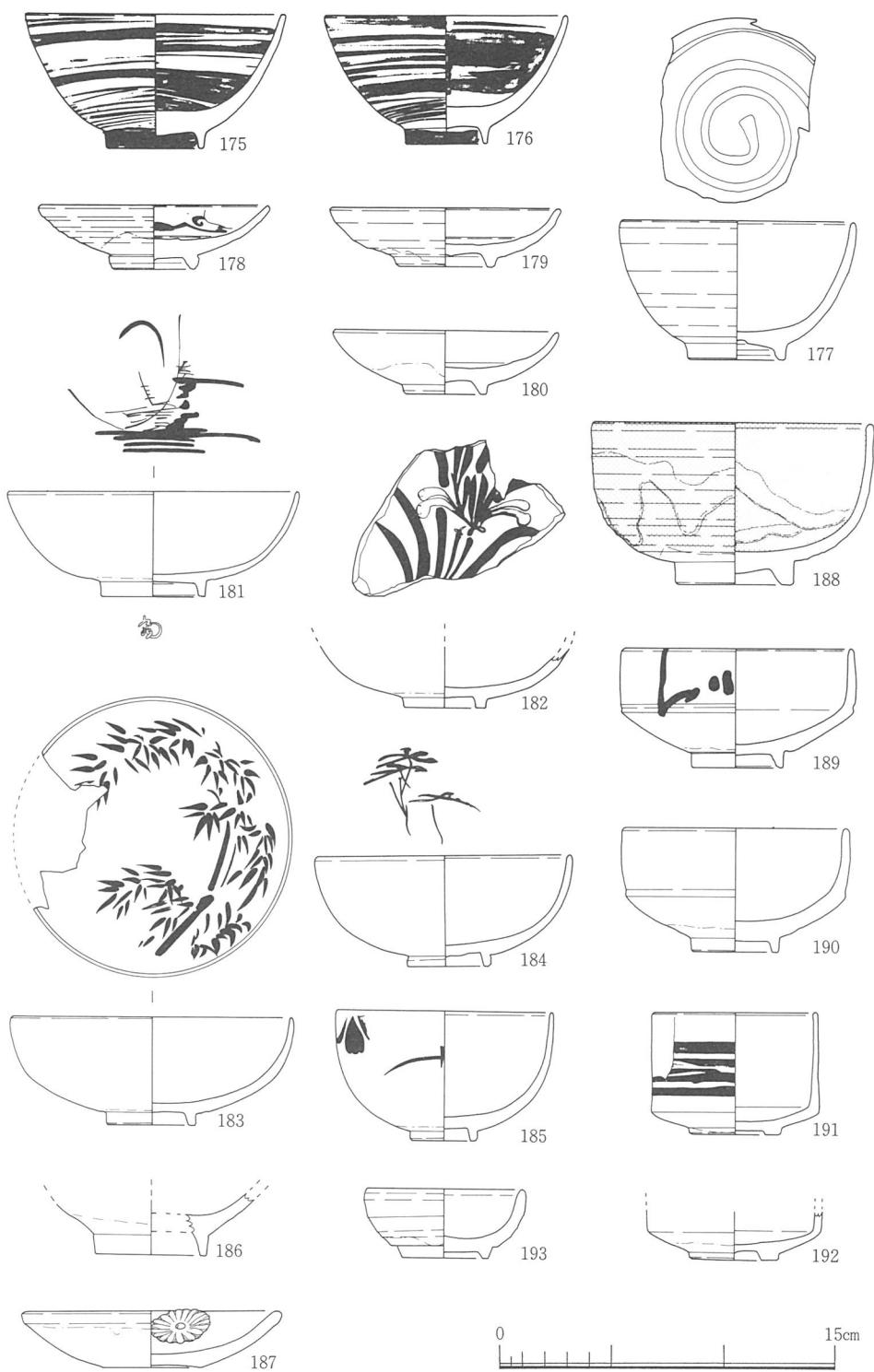
(206)は信楽焼の水指である。口縁部外側面に13本の沈線を施している。外面には泥漿が塗られる。

(207~210)は摺鉢である。(207~209)は備前焼である。全て暗赤褐色を呈する。

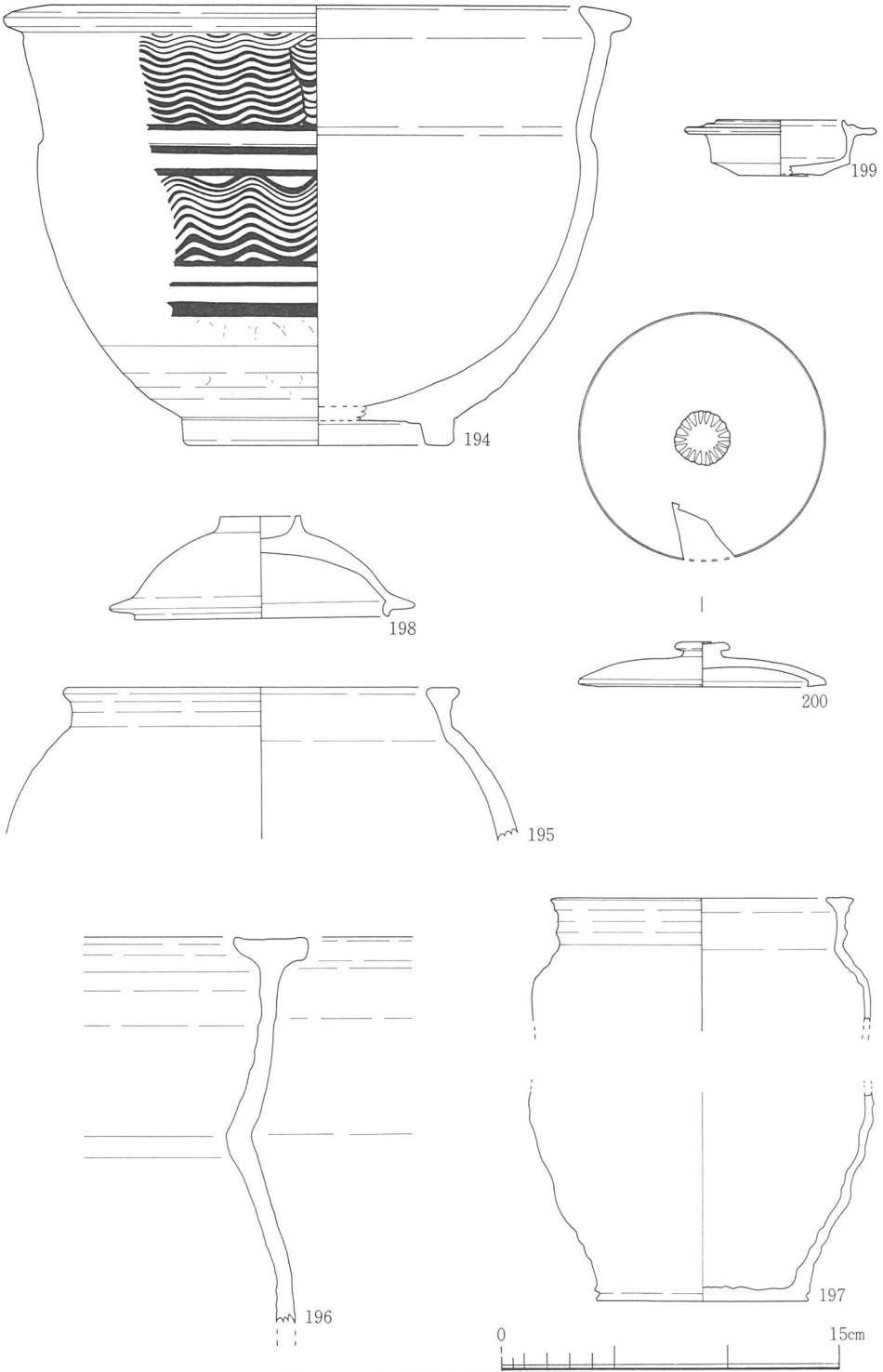
(207)と(208)はサイズが同じである。(207)は13本櫛で(208)は15本櫛を単位とする櫛目をもつ。

(209)は前2個体と比べて口径、器高ともにやや大振りである。櫛目の単位は12本である。

(210)は14単位の櫛目をもち、色調は茶褐色を呈する。胎土は軟質であり淡黄色を呈す。

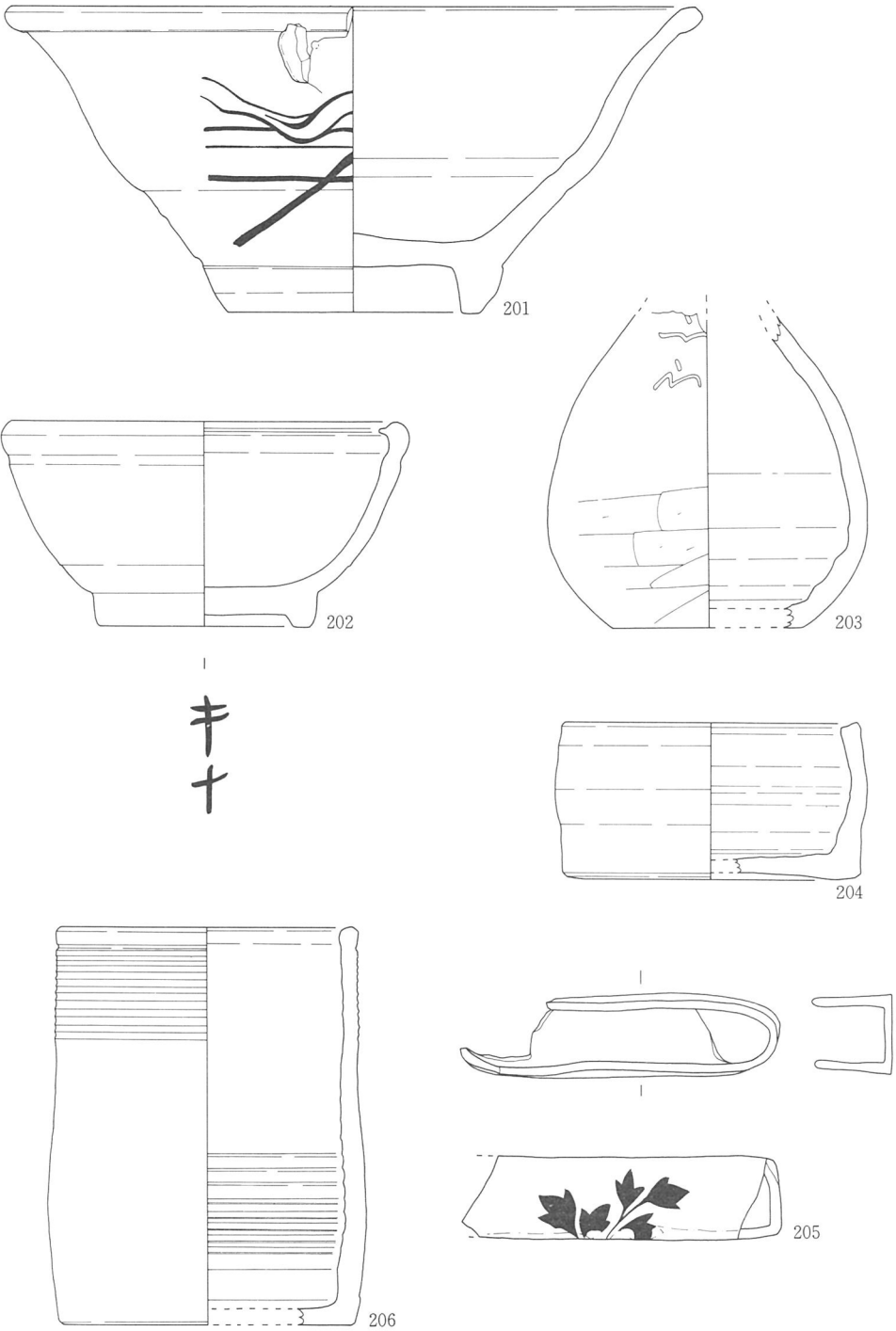


第36图 包含層出土遺物（7）

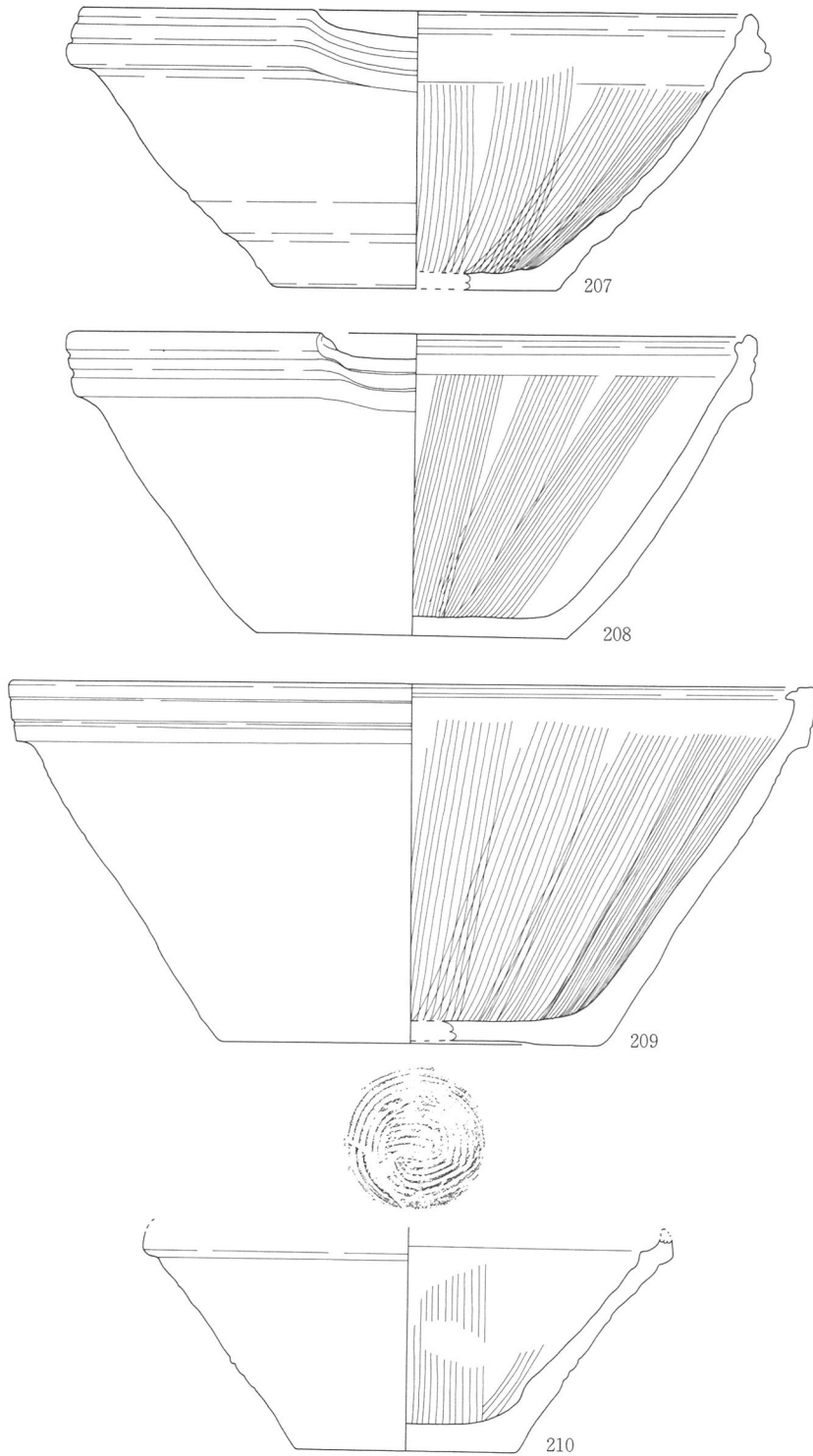


第37図 包含層出土遺物（8）

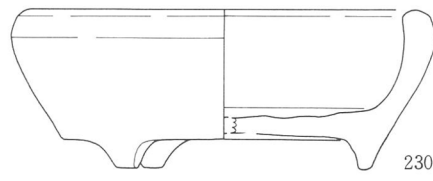
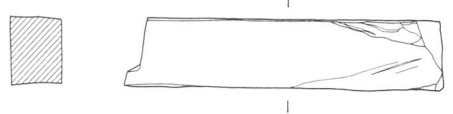
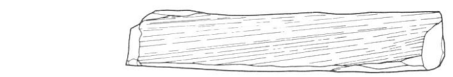
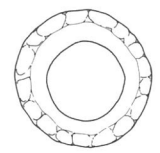
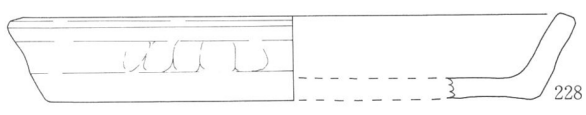
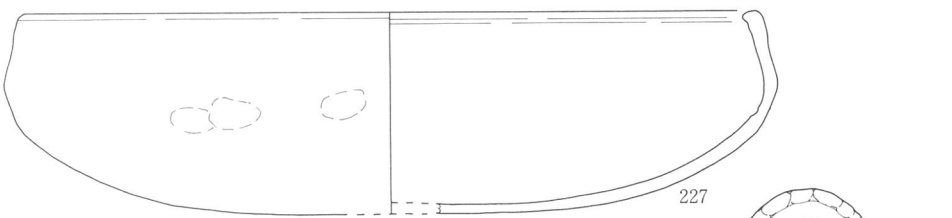
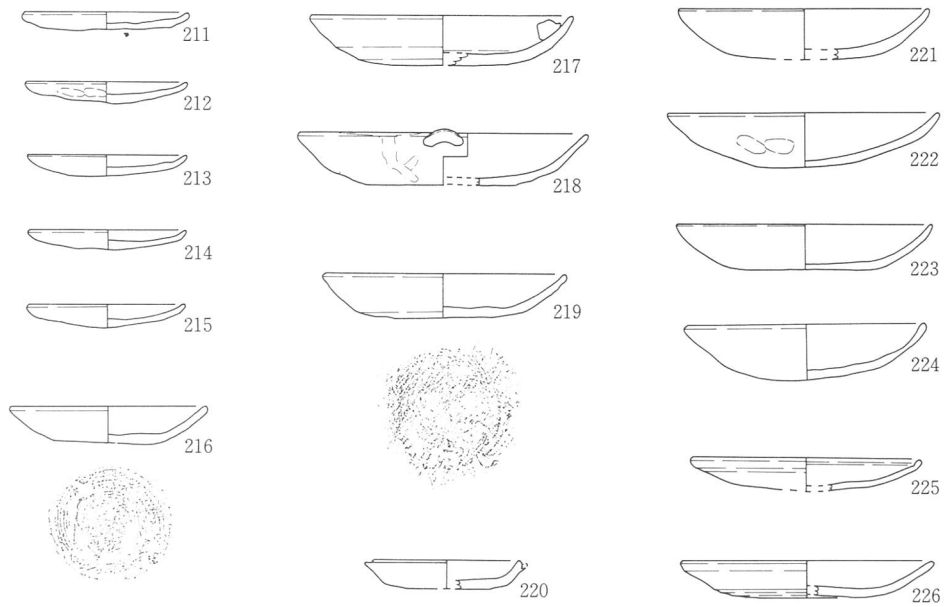




第38図 包含層出土遺物 (9)



第39図 包含層出土遺物 (10)



第40図 包含層出土遺物 (11)

内面底部は一回転の櫛目をもつ。産地は不明。

#### 土師質、その他（第40図、図版14）

（211～224）は土師質の皿であるが（216～220）は施釉土師質皿である。（211～215）は器高の低い口径約6.5cmの小皿である。（216～220）は内面より口縁端部外面まで飴色の釉を施す。（217）は口縁端部内面に3箇所粘土塊を貼付けている。また（218）は口縁部外面に粘土塊を3箇所貼付けている。（218）の口縁部外面には煤が部分的に付着している。（217・218）は底部が指おさえであるのに対して（216・219・220）は底部に回転系切痕を残す。サイズも前2点と比べて小さい。

（221～224）は底部が指おさえである。（226）は赤褐色に発色し、飴釉が掛けられているが、焼成が良好で胎土が陶質化している。（225）は焼成が悪く瓦質となっている。口縁端部に煤が付着している。

（227・228）は土師質の炮焙である。（227）は外面体部に指頭痕を残している。底部は丸底風である。（228）は底部が平底で口縁部が外方へ開く。器壁は（227）に比べて厚い。

（230）は土師質の火舎である。貼付けの三足をもつ。（229）は陶製の土錘である。

#### 瓦

近世以降の瓦は、コンテナで約650箱分出土している。以下詳細を述べる。

#### 軒丸（第41・42図、図版26・27）

軒丸瓦の瓦当文様として、巴文のものが4種類出土している。外区文様として珠文帯が配されるが、珠文の数が16単位のもの、13単位のものがある。16単位のもものが（233）で、13単位のもものが（232・234～240）である。珠文帯が13単位のもものはさらに珠文が偏平で面をもつもの（232・234）、珠文が小さいもの（238）、珠文が半球形を呈するもの（235～237・239・240）に3分される。

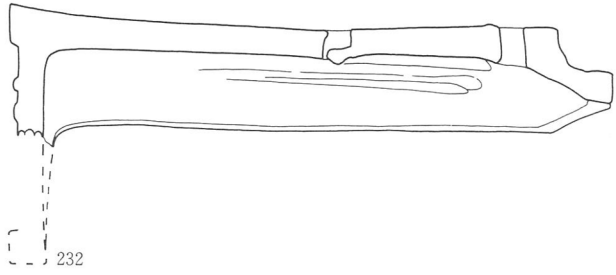
#### 軒平（第43図、図版28）

瓦当文様は全て均正唐草文であり、5種類以上のタイプを認めた。（241～245）は中心に上向形中心飾を配し、粗略化された蕨手が中心より外に向かう文様である。周縁は直立縁。（241～245）はそれぞれ范が違い文様は基本的には同じだがそれぞれ細部が異なる。

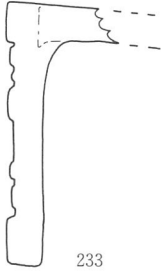
全て両脇区の拡張が進行しており、周縁のうち両脇区が約1/2を占めている。

#### 丸瓦（第44図、図版29）

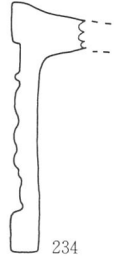
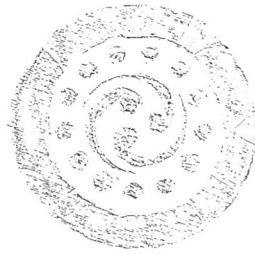
全て玉縁がつくタイプであるが、玉縁の長さが短いのをその特徴とする。サイズ、厚さ



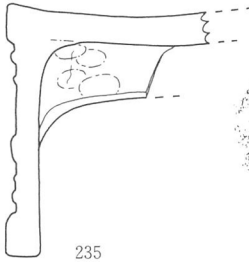
232



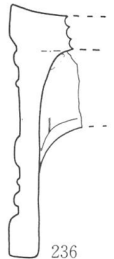
233



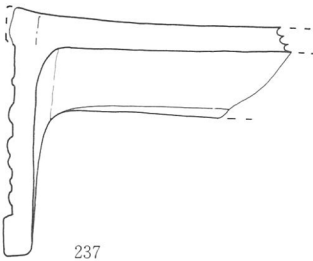
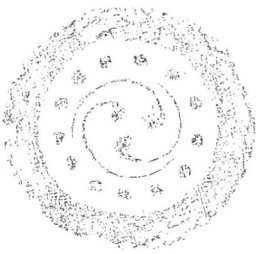
234



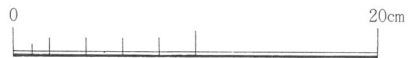
235



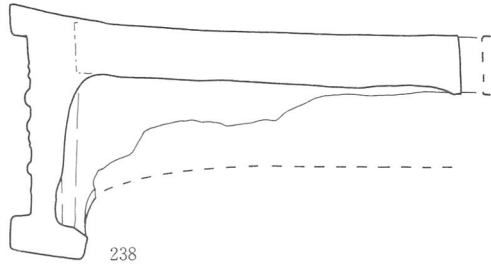
236



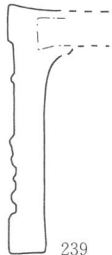
237



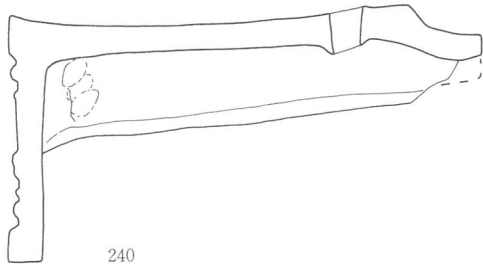
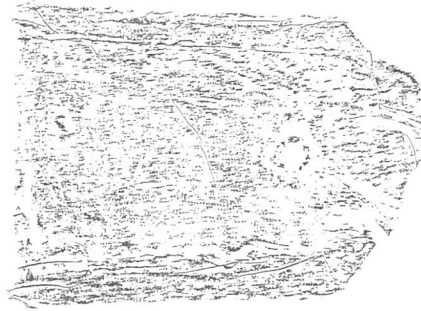
第41图 包含層出土遺物 (12)



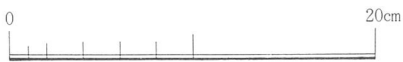
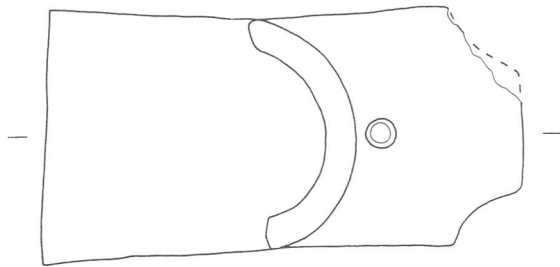
238



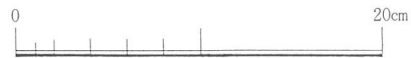
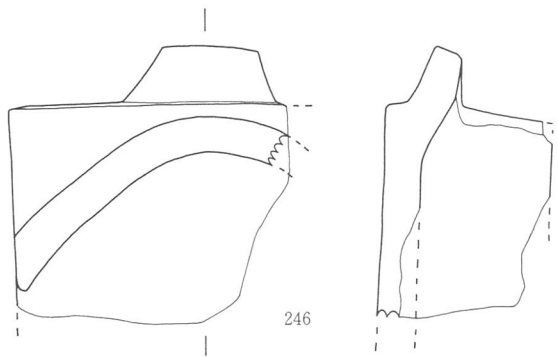
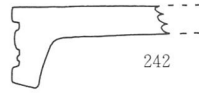
239



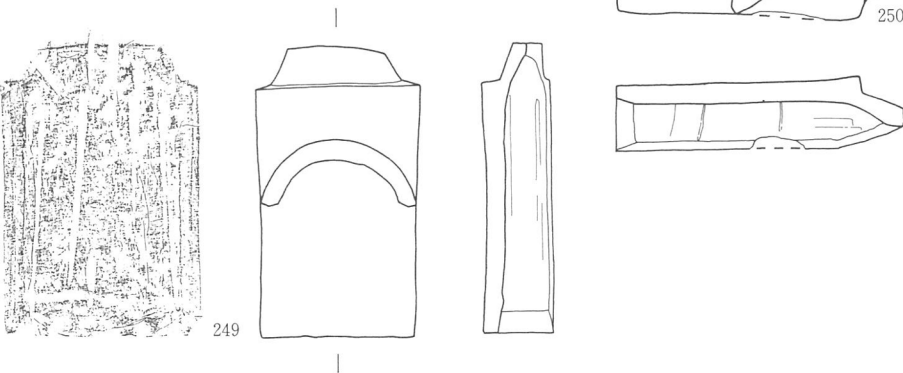
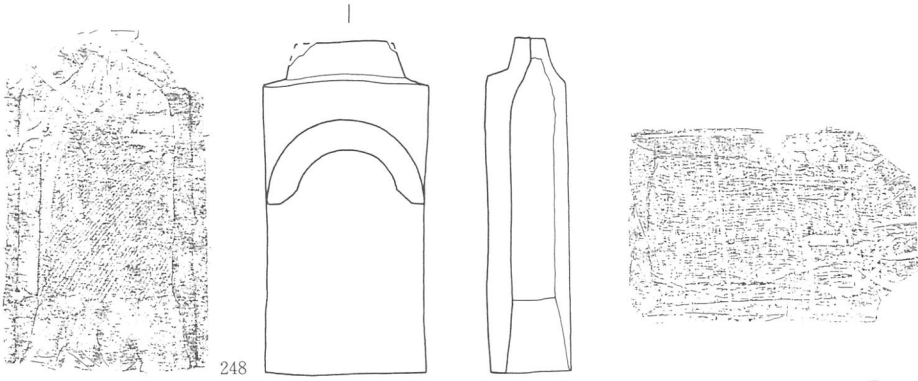
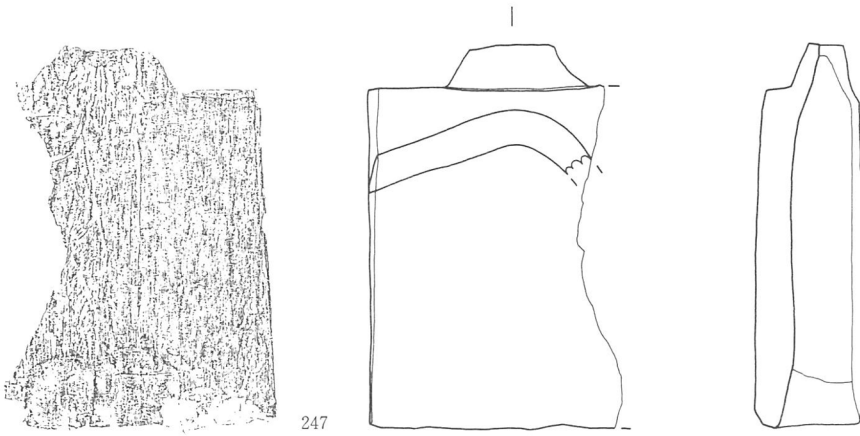
240



第42図 包含層出土遺物 (13)

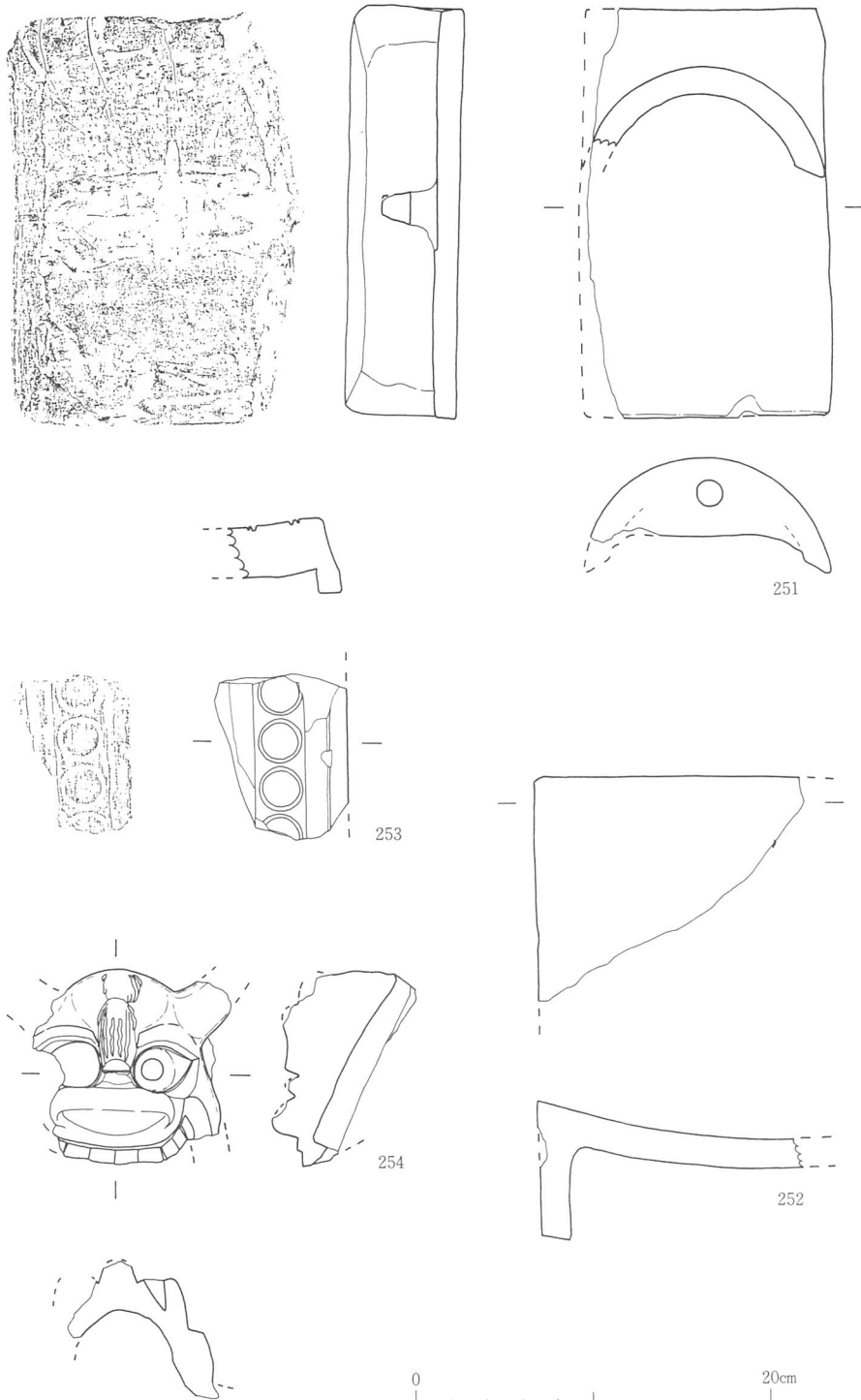


第43图 包含層出土遺物 (14)

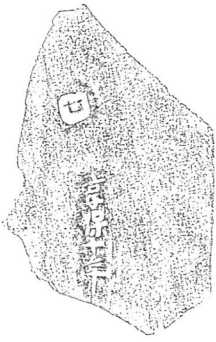


第44図 包含層出土遺物 (15)

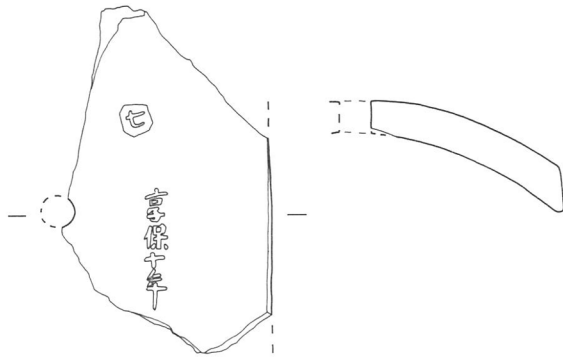




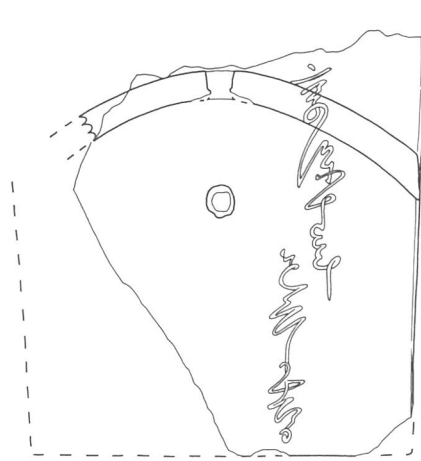
第45图 包含層出土遺物 (16)



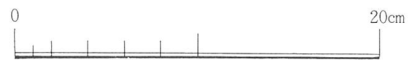
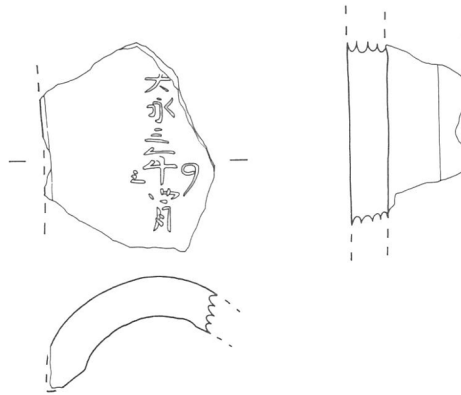
255



256



257



第46図 包含層出土遺物 (17)

などで、大きい順に（248・249・250）などがある。（250）は凸面に縦方向のヘラナデ調整がみられる。また凹面は布目、及び布をはがすための紐跡が残る。

#### 道具瓦 （第45図、図版31）

（246・247）は雁振で凸面は部分的に布目を残し、凹面はナデ調整。玉縁部はヘラで面取りがなされている。

（253・254）は鬼瓦である。（253）は周縁の板の部分で、スタンプによる円形の陰刻文が施される。（254）は顔の部分の残欠である。

#### 文字瓦 （第46図、図版32）

（255・256・257）の三点にヘラ描きで記年銘が認められた。（255）は平瓦の凸面に「享保十年」（1725年）のヘラ描きと「七」のスタンプ、（256）は同じく「享保十年、巳六月十六日」のヘラ描き、また（257）は丸瓦の凸面に「大永三年四月」（1523年）のヘラ描きが施されている。

#### 石製品 （第40図、図版17）

（231）は砥石である。裏、表の二面を使用している。現存長13cm、使用面の幅2.8cm、重さ170gを測る。石材は粘板岩を使用している。

#### 石臼 （第47・48図、図版33・34）

粉挽き臼（258～267）は、10点出土している。上臼（258～265）が8点出土しており、上面のくぼみは全て削り出されているが、メの刻まれていないもの（264・265）もある。

メが刻まれているもの（258～263・266・267）では主溝の数により、8分画のもの（258・261～263）と7分画のもの（259・260）の二種類に分けることができる。

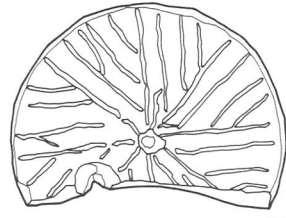
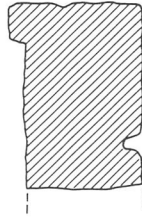
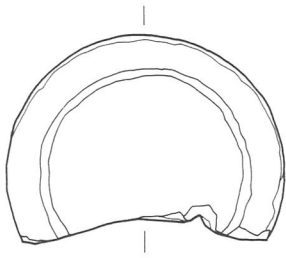
7分画のものは2点あるが両方共7分画4溝である。

8分画のものは4溝のもの（258・262）と5～6溝のもの（261・263）の2通りある。胴部に挽き木受けの観察できるもの（260・264）が2点ある。

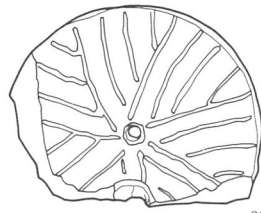
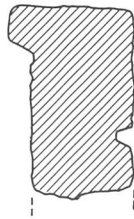
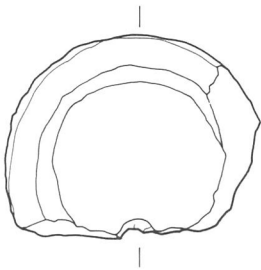
下臼（266・267）は2点出土しており、メのパターンは8分画4溝のもの（266）と8分画8溝のもの（267）である。（267）は中央部までメが及んでいない。（266）は芯棒孔が未貫通である。

石臼（258～266）は直径が30cm前後を測り、高さも14cm前後のものが多く見られる。したがって、ある程度の規格性の存在を指摘できるかもしれない。

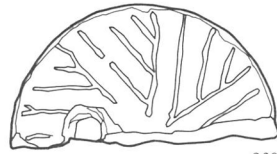
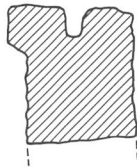
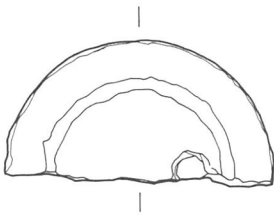
直径40cmの大型のもの（267）や厚さ11cmの薄いもの（261）なども出土した。石材は全て和泉砂岩である。



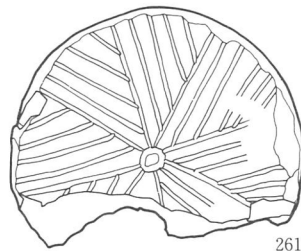
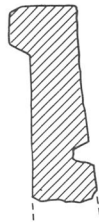
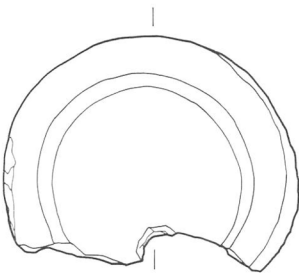
258



259



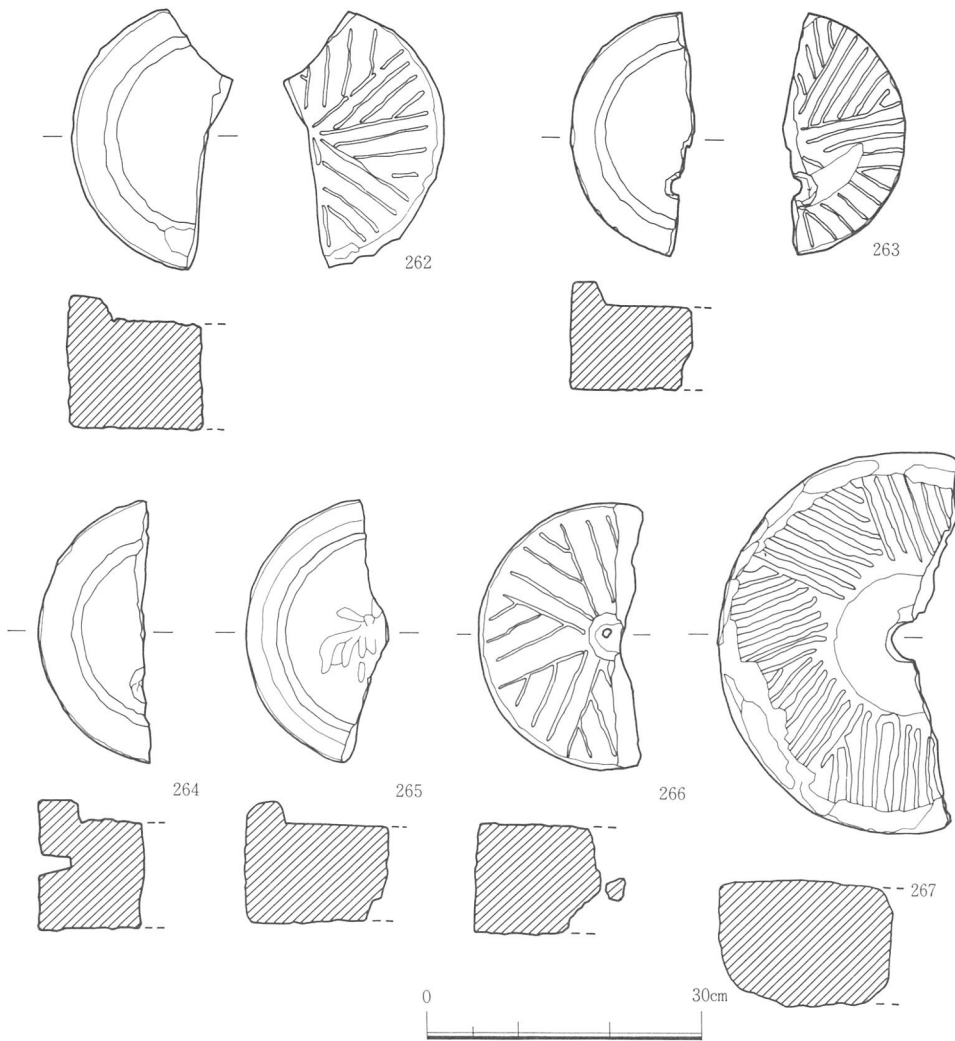
260



261



第47図 包含層出土石製品



第48図 包含層出土石製品

銭貨 (第49、図版17・表1)

今回の調査ではB区の包含層内より計5枚の銭貨が出土した。1は渡来銭の開元通宝で



第49図 銭貨拓影 (1:1)

ある。銭貨は縁を欠損し残りが悪い。裏面に鑄造地が表示されていないので初鑄造年621年のものと思われる。2～5はすべて寛永通宝である。

No	図版番号	銭貨名	初鑄年	西暦(年)	直径 (cm)	穿径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土地点	備考
1		開元通宝	唐・武徳4年	621	2.5	0.75	0.11	1.1	K-22-LC	
2	図版17	寛永通宝	日本・寛永年間	1624~1644	2.35	0.61	0.11	2.4	K-22-JD	銅
3	図版17	寛永通宝	日本・寛永年間	1624~1644	2.1	0.68	0.13	1.0	K-22-JD	銅
4	図版17	寛永通宝	日本・寛永年間	1624~1644	2.21	0.64	0.10	1.2	K-22-LF	銅
5	図版17	寛永通宝	日本・寛永年間	1624~1644	2.35	0.63	0.12	2.3	K-22-LD	銅

石造遺物 (第50・51図、図版8・35・36、表8)

光背型板塔婆(268~272)は5点出土している。中央に五輪塔を刻むもの(268・270~272)と戒名を直接刻むもの(269)がある。なお五輪塔を刻むものは4点ともタイプが異なる。全て和泉砂岩製である。

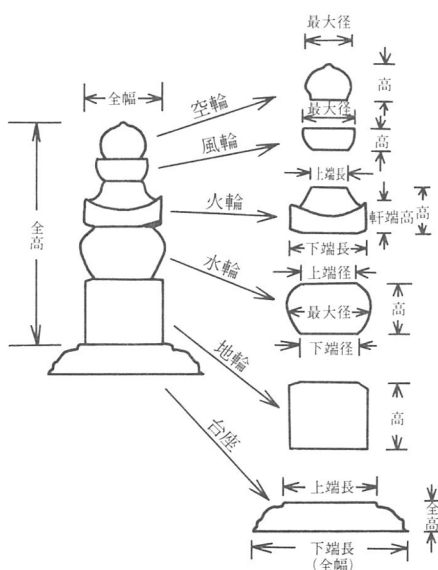
(273)は板碑である。中央に大日如来の種子を刻む。

(274~278)は一石五輪塔である。サイズにより、やや大型のもの(274・277)、小型のもの(276・278)、地輪部分が長足のもの(275)の三種に分けられる。全て和泉砂岩製である。

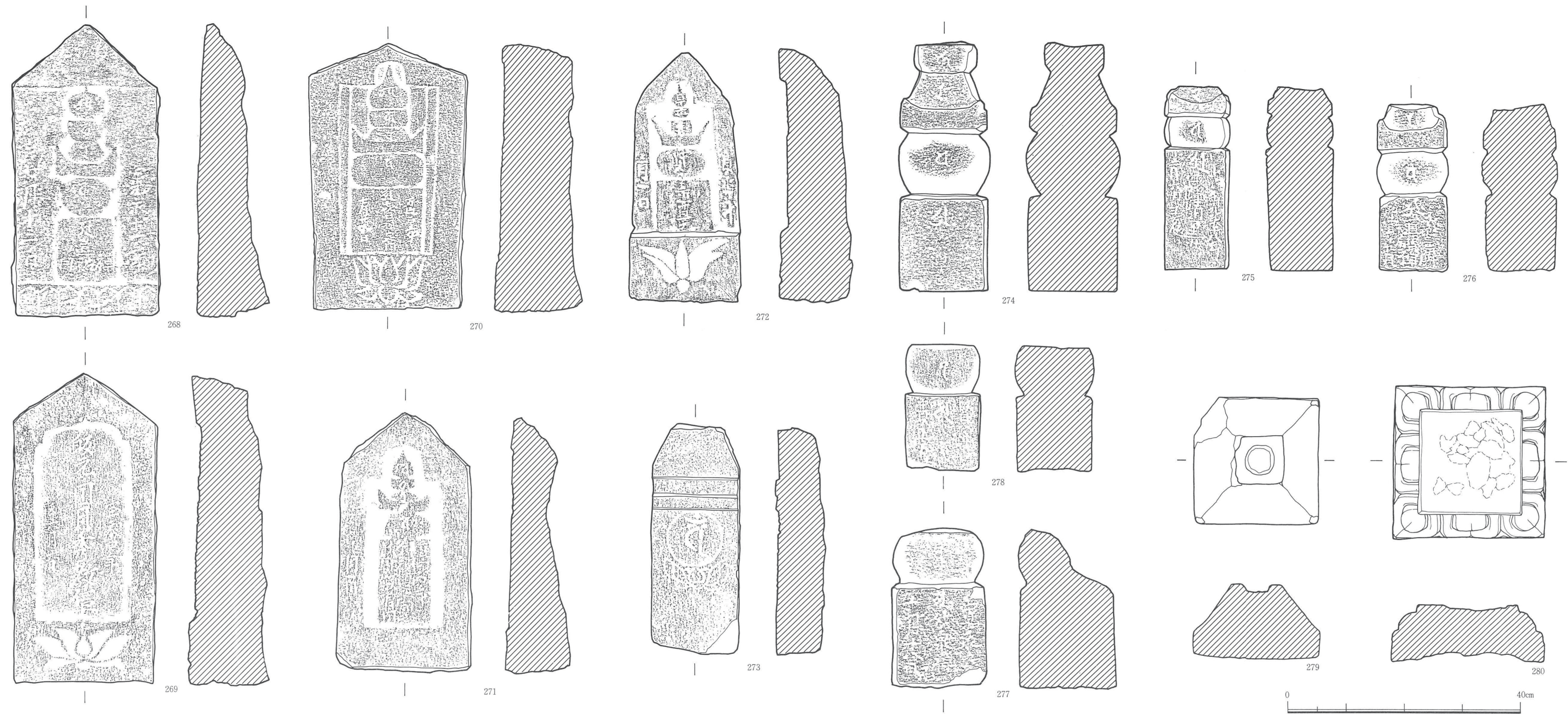
(279)は五輪塔の火輪の未製品である。

(280)は複弁の反花座である。石塔の台座であるが、石列に転用されていた。和泉砂岩製である。

石造遺物に刻された銘文の全容については表8を参照されたい。



第50図 五輪塔計測部位概念図



第51图 包含層出土石製品

## C区

B区の北側に位置する。調査前の地目は畑地であり、標高はT.P+32.4mを測る。

遺構は整地層上面において土壌、暗渠、鋤溝を検出し、下層面では礎石建物跡、瓦溜などを検出した。

3-OI (第52図、図版10)

K-22EY・FY・GY・GA・HA・HB・IB・IC・JB・JC・ID・IE地区にかけて位置する。調査区内を南北方向に走り北側は削平されている。南側はL字状に曲げて、東方の調査区外に延びる。

検出全長33m、幅約0.4m、深さ0.4m前後を測る。埋土は7.5YR5/6明褐色シルトで5cm前後の石を多量に含む。遺物は近世瓦、陶器の小片が出土した。

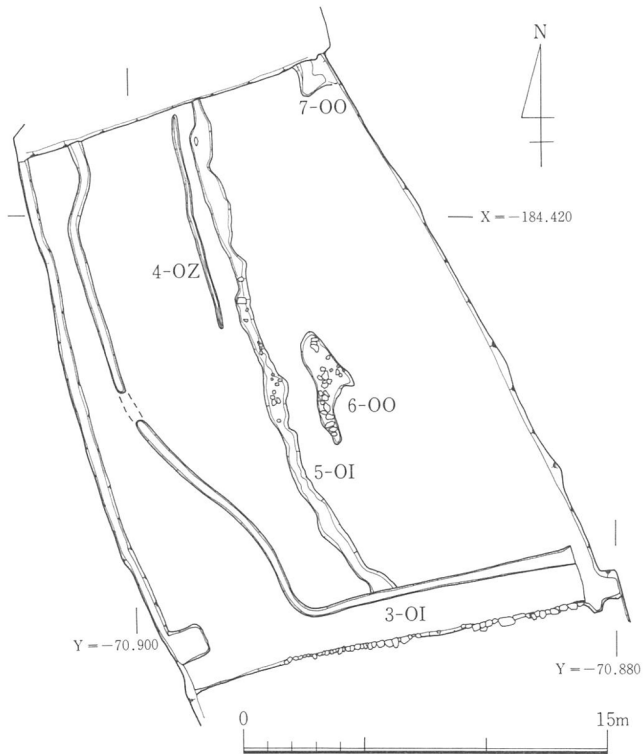
4-OZ (第52図、図版10)

K-22EA・FA・GA地区に位置し、5-OIと平行に走る。検出全長8.7m、幅0.2m、深さ4cm前後を測る。埋土は10YR8/3浅い黄橙色シルトである。おそらく鋤溝と思われる。遺物は出土しなかった。

5-OI (第52図、図版10)

K-22EA・EB・FA・FB・GB・HB・HC・IB・IC地区にかけて位置し、調査区内を南北方向に走る。

北側を削平され、南側は3-OIに切られている。検出全長21m、幅0.8m前後、深さ7cm前後を測る。埋土は10YR5/6黄褐色弱粘質シルトで5cm前後の礫を含む。遺物は出土しなかった。



第52図 C区遺構平面図(上層)



6-00 (第52図、図版10)

K-22GB・GC・HB・HC地区に位置する。形状は、不整形を呈し、北から南方向に延びるものである。規模は、長軸で4.6m、短軸で約1mを測り、深さは5cmである。

埋土は、10YR6/4にぶい黄橙色シルトである。また、埋土からは大きさ20cm程度の石が多く出土した。遺物は出土しなかった。

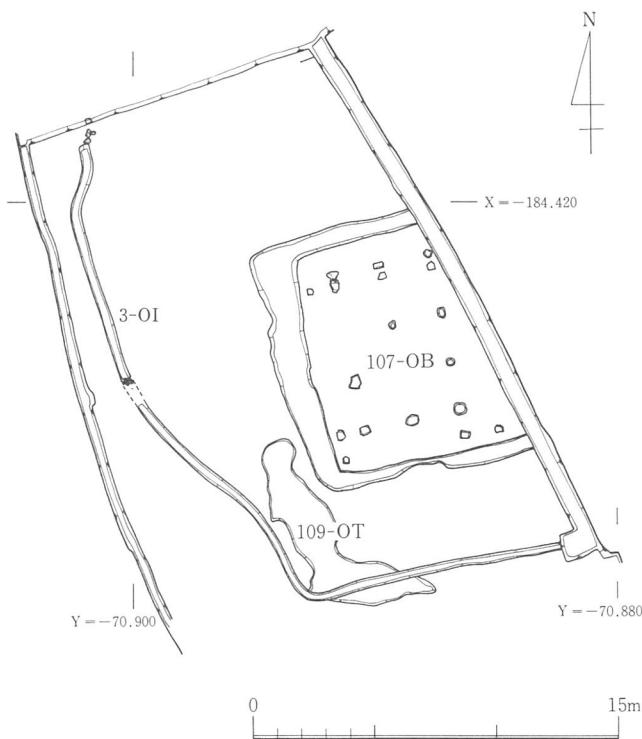
7-00 (第52図、図版10)

K-22DB地区に位置するが、遺構は東側を調査区外に延びており、北側は削平されているため、その全容は明らかではない。検出し得た部分の形状は、不整形を呈するものと思われる。埋土は7.5YR 3/1黒褐色シルトで炭を多量に含む。遺物は出土しなかった。

107-OB (第53・54図、図版11)

K-22FB～FD・GB～GD・HB～HE地区にまたがって位置する礎石建物跡である。建物は東側を調査区外に延びており、その全容は明らかではない。

礎石は南北4箇所3間、東西3箇所2間以上が確認された。検出された範囲での規模は、南北6.5m、東西4.5mを測る。礎石間は南北2m、東西2mとほぼ同じである。



第53図 C区遺構平面図(下層)

方位は南北の礎石でN-12°-Wである。

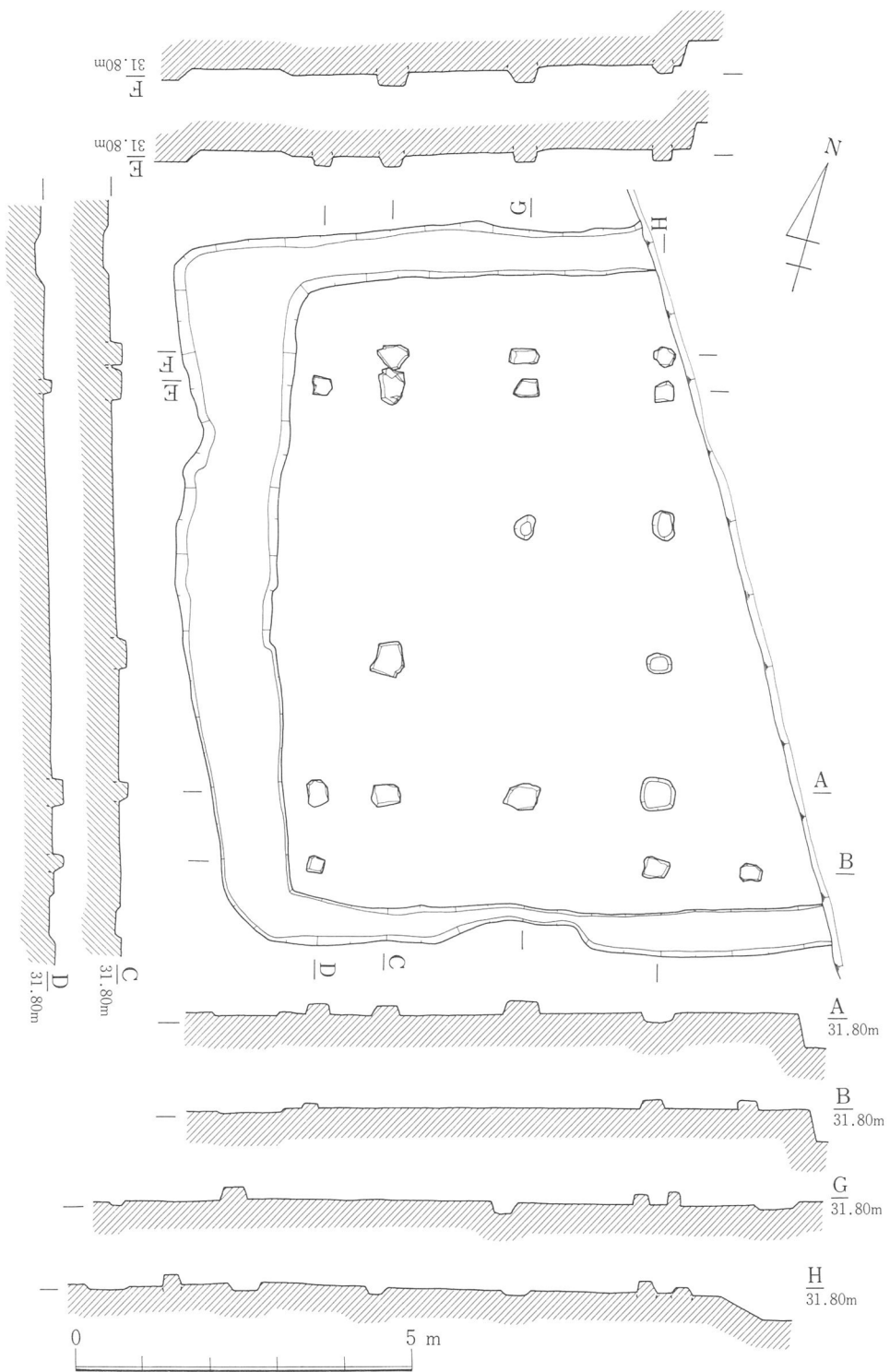
礎石は長径0.5m前後の偏平な割石を整地した面より掘り込んで置かれている。

また、外側には庇の礎石と思われるものを検出した。

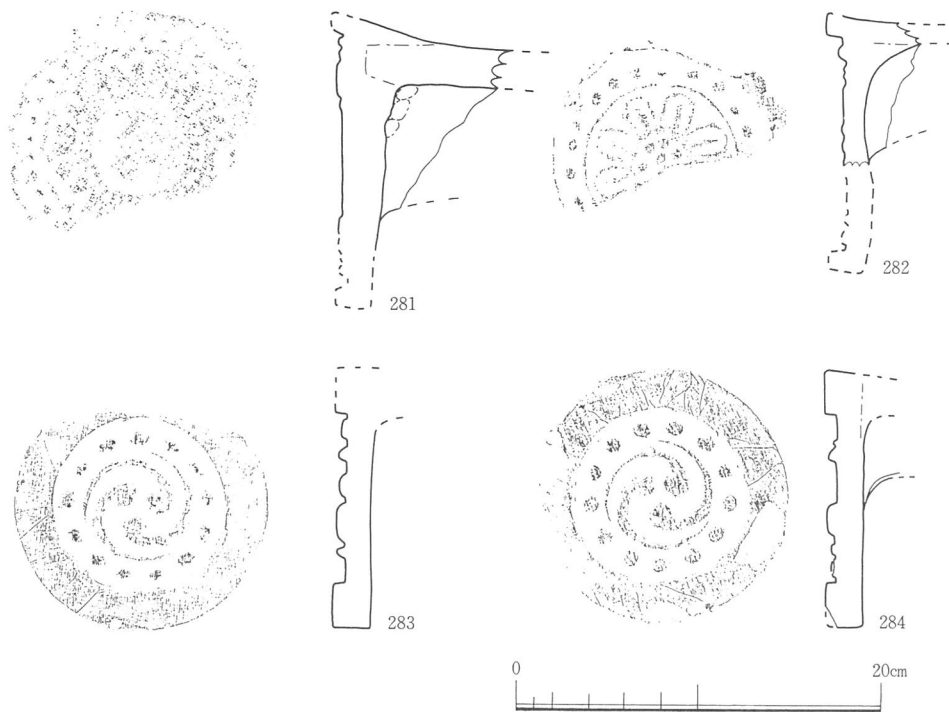
周囲には幅1m前後の雨落ち溝をもつ。遺物は出土しなかった。

109-OT (第53図、図版11)

K-22HB・IB～ID・JC地区に位置する



第54图 107-O B 平面图・立面图



第55図 109-O T 出土遺物

瓦溜である。平面形は不定形で、長軸7.8m、短軸1.5m、深さ8cm前後を測る。遺物は瓦の小片が多量に出土した。

109-O T 出土の瓦 (第55図、図版26・27)

(281~284) は軒丸瓦の瓦当である。(281) は複弁式蓮華文を内区文様にもつものと思われる。花卉は12単位で、珠文は34単位と思われる。

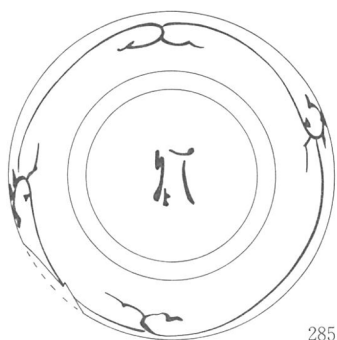
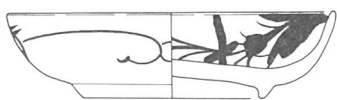
(282) は8単位の単弁式蓮華文を内区文様とする。

(283・284) は内区文様に巴文をもつ軒丸瓦である。巴は全て左巻きである。外区の珠文帯は13単位である。

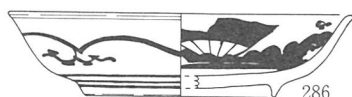
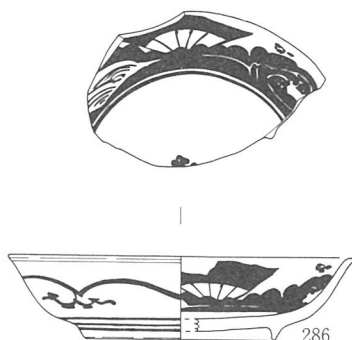
C区包含層の遺物 (第56図、図版17・24)

(285・286・288) は染付皿である。(285) は内側面に扇をあしらった草花文を描き、見込みにコンニャク印判による五弁花文を描く。外側面には唐草文が巡り高台裏には呉須銘をもつ。

(286) は内側面には扇文、見込みにはコンニャク印判の五弁花、外側面は(285)と同様唐草文が巡り高台裏には「~製」の文字が描かれる。



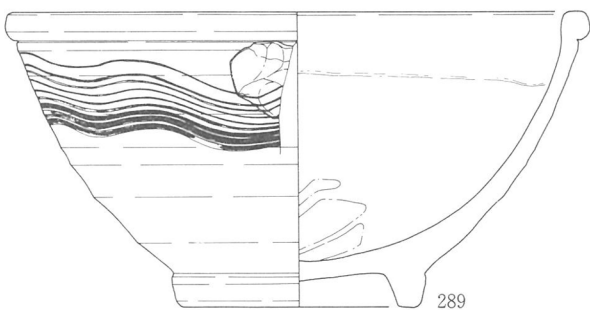
285



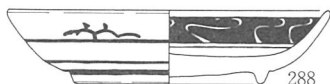
286



287



289



288



第56图 C区包含層出土遺物

(287) は碗である。内面無文であり、外側面に草花文、高台外側に圏線が巡るだけである。

(288) は内側面に白抜きで波状を表現する。この白抜き部分は呉須を素地ごと削り取っている。見込みにはコンニャク印判の五弁花文を配す。外側面は圏線と唐草文の組み合わせである。(285~288) は共に伊万里焼である。

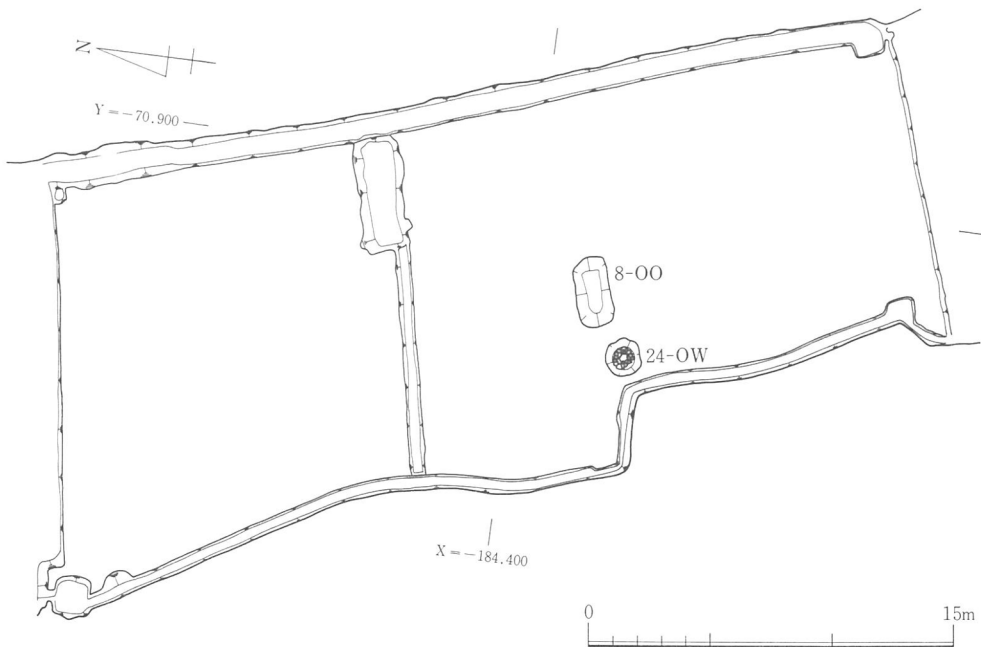
(289) は唐津焼の片口鉢である。高台は削り出しであり、口縁端部は玉縁状に仕上げている。白濁釉を内面見込みより、外面体部中位まで施釉した後、9本単位の櫛状工具で外面体部上半に波状文を施す。さらにその後濃緑釉を内面見込みより口縁部外側面まで施釉する。見込みの一部は濃緑釉をかけ残し、白濁釉をのぞかせている。露胎部は化粧がけが行なわれていると思われる。

#### D区

調査区のはぼ中央部にあたる。調査前の地目は畑地であり、調査前の標高はT.P+31.4m前後を測る。遺構は土壌と井戸を検出することができた。

8-00 (第57図、図版12)

D区中央部のK-21AX・AY地区にまたがって検出した。24-OWの東側に位置する



第57図 D区遺構平面図

土壌である。平面形は、楕円形を呈し、長径約2.9m、短径約1.4m、深さ0.65mを測る。

埋土は10Y R7/8黄橙色シルトである。遺物は瓦が数点出土しただけであった。

24-O W (第57・58・59、図版12・17)

D区東端のK-21 B X地区において検出した。円形の石組み井戸である。上半分の石組みは崩れており、下半分の構造のみ検出することができた。検出面での掘方は円形で、直径約1.4m、深さ1.35m前後を測る。

石組みは砂岩の割石積みで、基底にはやや大きな石材を用いている。遺存している最上部での石組みの径は約0.6mを測る。

遺物は埋土中から砥石(293)および染付・磁器・陶器の細片が少量出土した。

遺物 (第59図、図版17)

(293)は粘板岩製の砥石である。重さ350g、現存長18.3cm、最大現存幅6.8cmを測る。使用が著しく、原形をとどめていない。

D区包含層の遺物 (第59図、図版17・24)

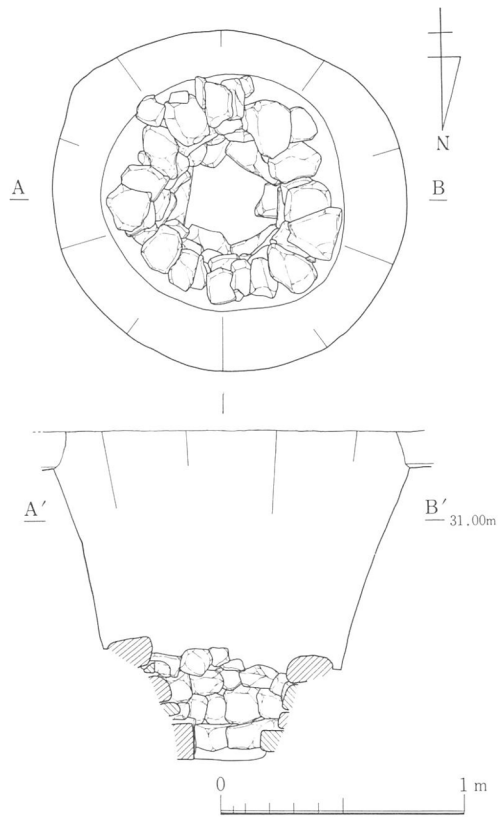
(290)は染付碗である。外面体部に梅花文を施す。伊万里焼である。

(291)は京焼系陶器の碗である。外面体部高台脇より下を露胎とする。内面見込み釉薬下に薄く鉄絵がみられる。また見込み中央に3箇所を目

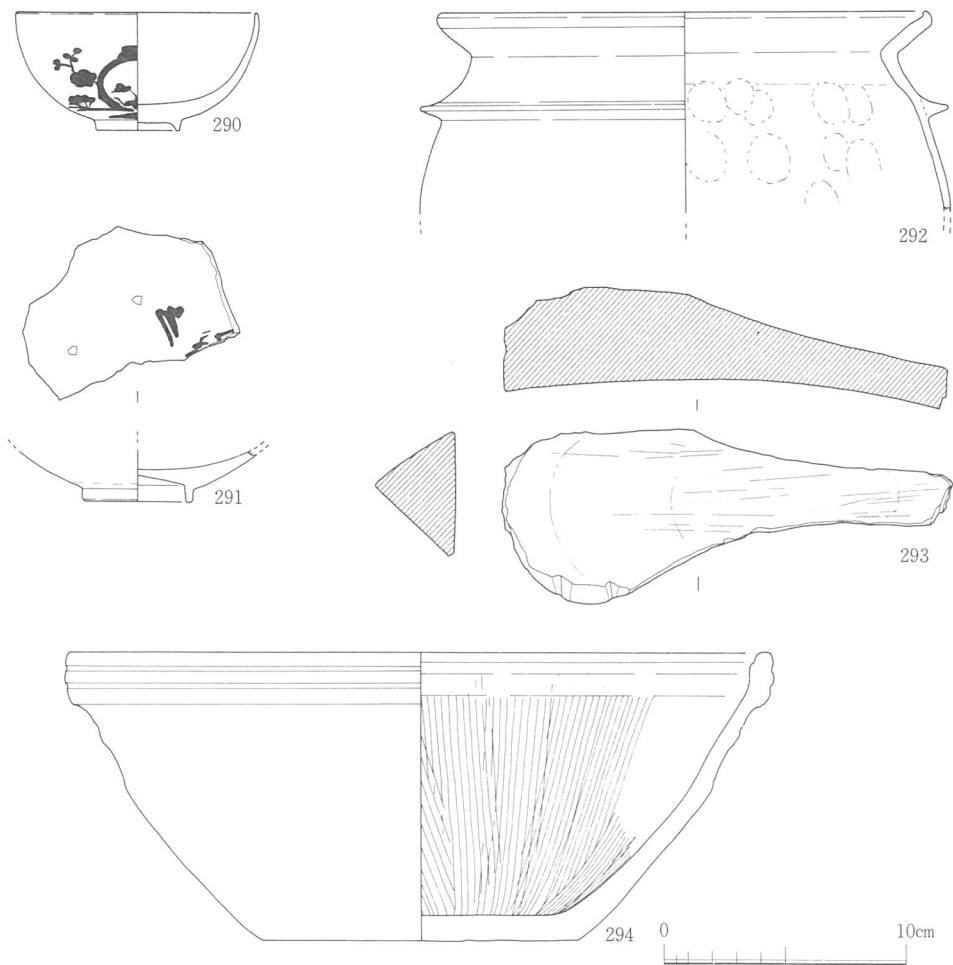
跡を残し、施釉部分全面に細かい貫入をもつ。(292)は土師質の土鍋である。胎土には砂粒が多く含まれる。(294)は備前焼の摺鉢である。

E区 (第60図)

E区はD区の北側に位置する。調査前の地目は水田および畑地であり、調査前の標高はT.P+30.5~31.0mを測る。E区では、近~現代の削平が著しく、遺構は検出できなかった。



第58図 24-O W平面図・立面図



第59図 D区出土遺物

た。遺物も染付、磁器、陶器の細片が少量出土しただけだった。

F区 (第61図)

E区の北側に位置する。調査前の地目は水田であったと思われるが、非常に水はけの悪い水田で沼状になっていた。調査前の標高はT.P+28.7m前後を測る。遺構は溝、土壇等を検出することができた。

22-OS (第61・62図、図版13・17)

F区のK-16RU~RY・QU・QX・QY・PT・PU・OT・NT地区にまたがって検出した。全長は31.5mで、幅約0.8m、深さ0.3m前後を測る。溝は調査区内の南側と西側をL字状に走り、東側と北側の両端を調査区外にのぼす。埋土は10GY4/1暗緑灰色

粘土である。

遺物は近世瓦・石製硯  
(295) を出土した。

(295) は K-16R X 地  
区で出土した硯である。硯  
は硯池(海)の部分で欠損  
する。現存長11.1cm、幅4.  
2cm、高さ1.7cmを測る。

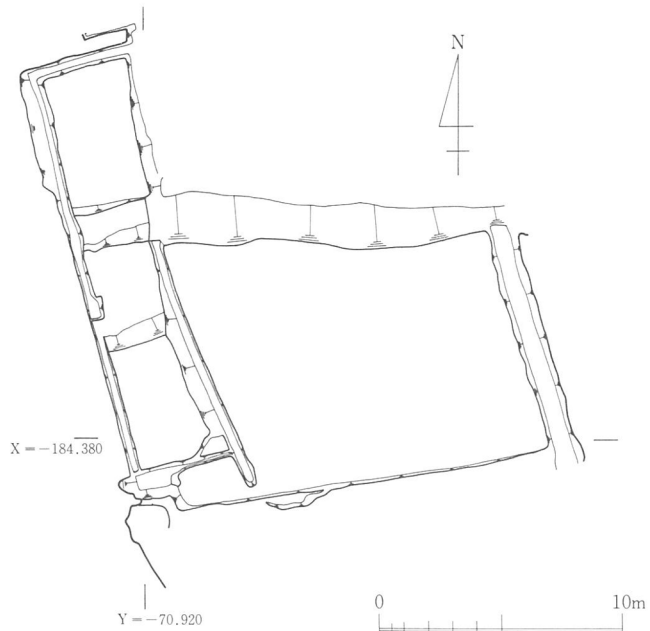
表面の中央部分(墨道)  
が使用によりすり減ってい  
る。底面と左・右の両側面  
に「大阪硯……」などの線  
刻銘をもつ。

25-00 (第61図、図  
版13)

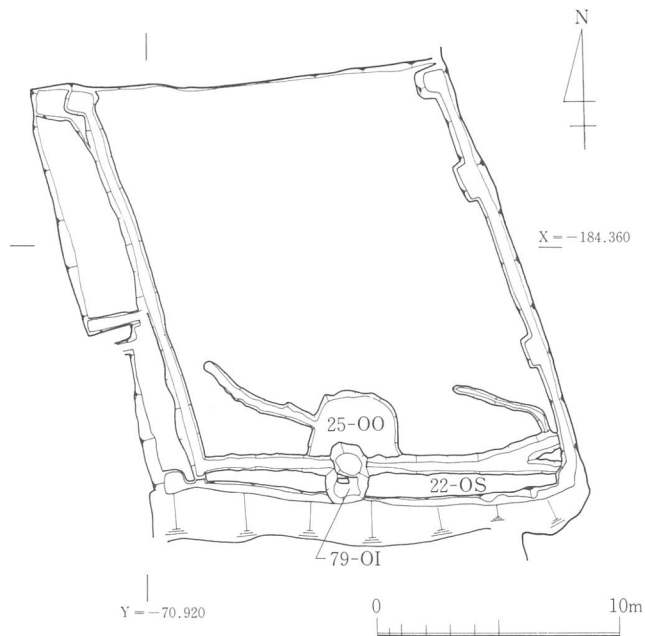
F区南端のK-16Q  
V・QW・RV・RW  
地区にまたがって検出  
した土構である。土構  
は22-0Sによって中  
央部より南側を切られ  
ているため全容は不明  
である。径は約3.6m、  
深さ20cm前後を測る。  
また、25-00より西  
側に延びる溝も合せて  
検出した。近世瓦を少  
量出土した。

79-01 (第61図、図版13)

22-0S・25-00を切るような形で作られている。南北2.2m、東西1.5m、深さ0.4

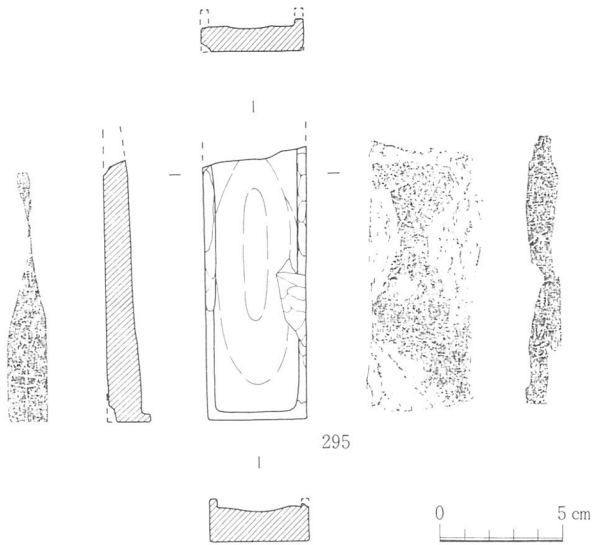


第60図 E区平面図

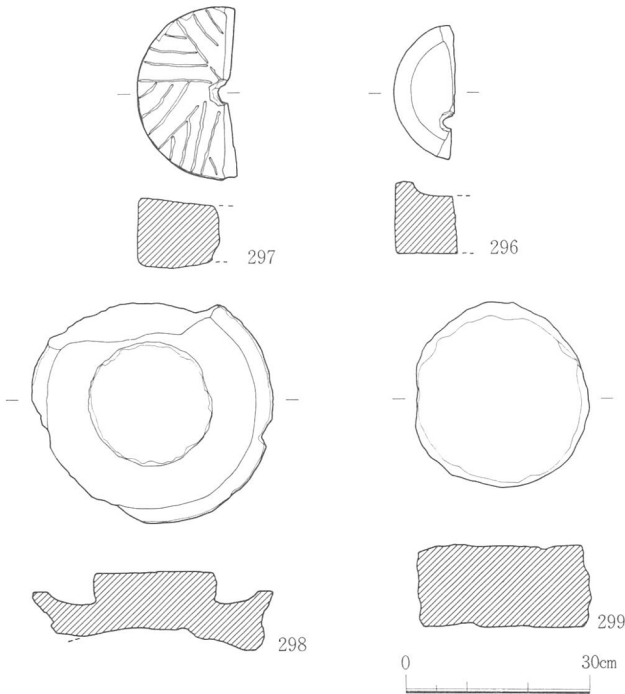


第61図 F区遺構平面図





第62図 22-O S 出土遺物



第63図 79-O I 出土遺物

の遺構も上部を削平されており、残りはあまりよくなかった。

m前後を測る。79-O I は22-O S に付随する施設（溜櫓）と思われる。

遺物は石臼（296～299）が出土した。

石臼（第63図、図版34）

粉挽き臼（296・297）と茶臼（298）未成品（299）の4点が出土しており、（297）は8分画4溝が刻まれている。上臼（296）は直径21.6cmの小型のもので、くぼみは削り出しによるものである。（298）は茶臼の下臼である。メが刻まれている。石材はすべて和泉砂岩である。

G区（第64図、図版13）

調査区の北端に位置する。調査前の地目は畑地であり、調査前の標高はT.P+29.0m前後を測る。遺構は土壇、ピット、溝などを検出することができた。しかし、いずれ

12-OP (第64図)

K-16KT地区において検出した。径約25cm、深さ10cm前後を測る。埋土は7.5Y6/1灰色弱粘質シルトである。遺物は瓦器の細片が1点出土した。

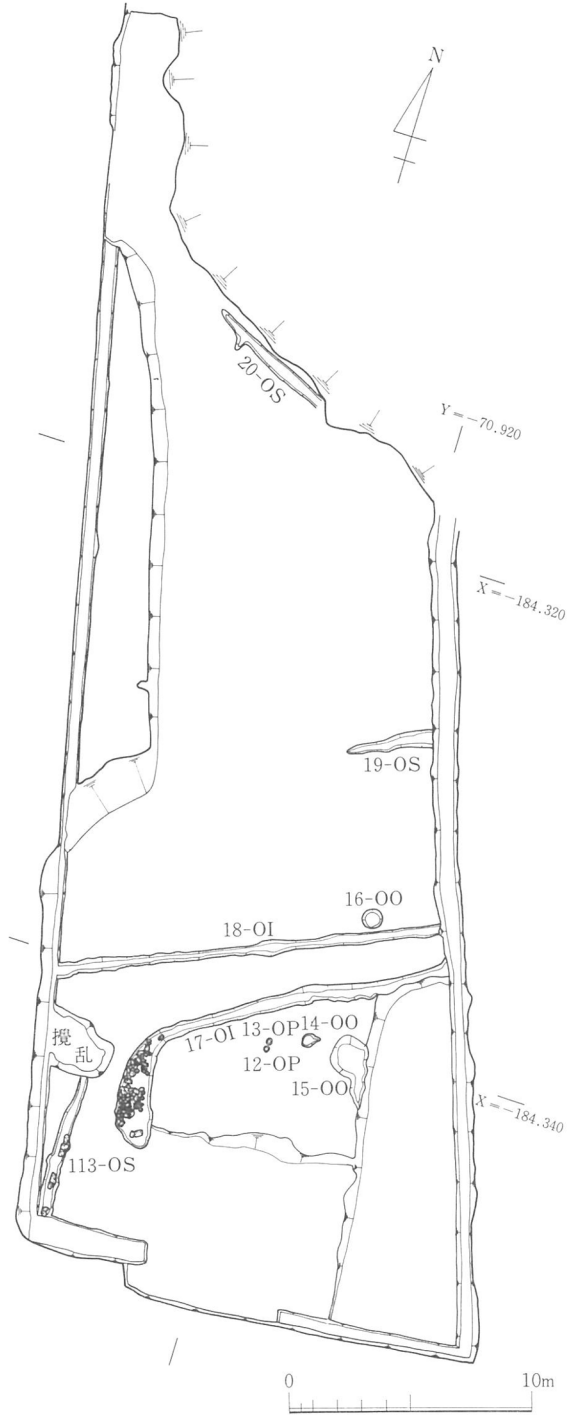
13-OP (第64図)

12-OPの北側のK-16KT地区において検出した。径約25cm、深さ8cm前後を測る。埋土は7.5Y6/1灰色弱粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

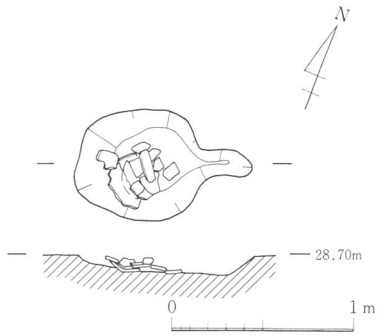
14-OO (第64・65・66図、  
図版17)

K-16KUに位置する。平面形は不整円形を呈するが、東側の中央部に短い突出部がある。長軸0.98m、短軸0.6m、深さ10cm前後を測る。埋土は2.5Y6/2灰黄色シルトの1層である。遺物は土師質の甕、砥石が出土した。

(300)は土師質の甕の底部である。外面に粗い叩き目、内面は刷毛目を残す。所謂湊焼き甕である。(301)は砥石である。現存長18cm、現存最大幅4.5cm、重さ580gを測る。凝灰岩製と思われる。



第64図 G区遺構平面図



第65図 14-00平面図・立面図

15-00 (第64図)

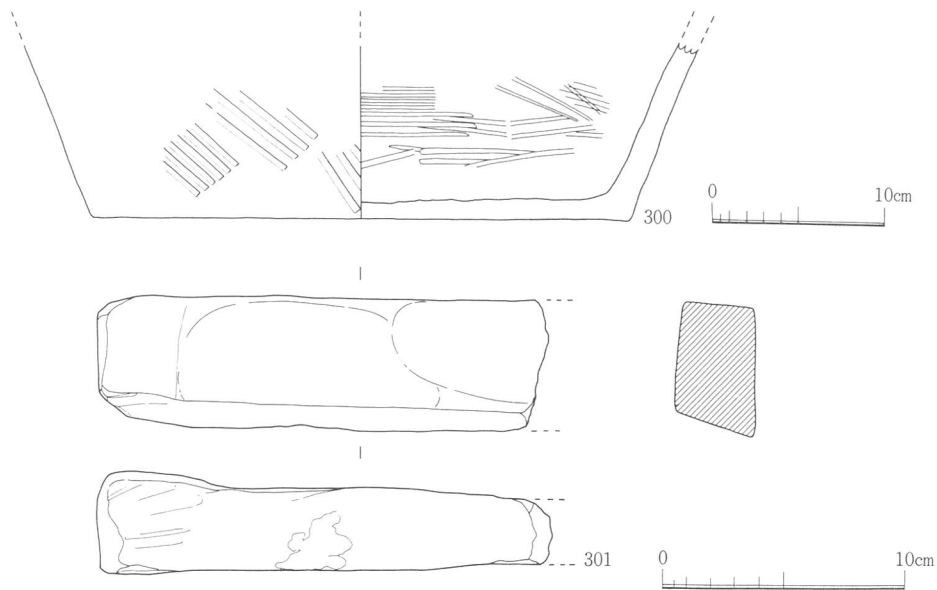
K-16JU・KU・KV地区に位置する。平面形は不整形円形を呈するが、南側に突出部がある。長軸2.8m、短軸0.6m、深さ0.2m前後を測る。埋土は2.5Y6/2灰黄色シルトの1層であるが、土壌の中央部に赤褐色の焼土を含んでいた。遺物は出土しなかった。

16-00 (第64図)

K-16IU地区に位置し、平面形は円形を呈する。直径0.8m、深さ0.2m前後を測る。埋土は2.5Y6/2灰黄色シルトである。遺物は近世瓦の細片が出土した。

17-01 (第64図、図版13)

K-16JT~JV・KS・KT・LS・LT地区に位置する。調査区内を北東から南西方向に走り、北東側を調査区外に延ばす。調査区内検出長17.0m、幅0.4~1.5m前後、深さ10cm前後を測る。埋土は2.5Y6/2灰黄色シルトの1層で、0.3m前後の石が多量に出土した。遺物は近世瓦の細片が出土した。



第66図 14-00出土遺物

18-O I (第64図、図版13)

K-16TU・IV・JR~JU・KR地区に位置する。調査区内を北東から南西方向に走り、両端を調査区外に延ばす。調査区内検出長16m、幅0.4m前後、深さ10cm前後を測る。埋土は2.5Y6/2灰黄色シルトである。

19-O S (第64図、図版13)

K-16GU・HT・HU地区に位置し、調査区内を北東から南西方向に走り、東側を調査区外に延ばす。調査区内検出長3.8m、幅0.7m前後、深さ10cm前後を測る。埋土は2.5Y6/2灰黄色シルトである。遺物は出土しなかった。

20-O S (第64図)

K-16DR地区に位置し、調査区内を東西方向に走る。調査区内検出長5.4m、幅0.5m前後、深さ2cm前後を測る。埋土は2.5Y6/2灰黄色シルトである。遺物は出土しなかった。

113-O S (第64図、図版13)

K-16LS・MS地区に位置する。調査区内を南北方向に走る。北側を攪乱によって切れ、南側は調査区外に延ばす。調査区内検出長6.0m、幅0.5m前後、深さ5cm前後を測る。遺物は出土しなかった。

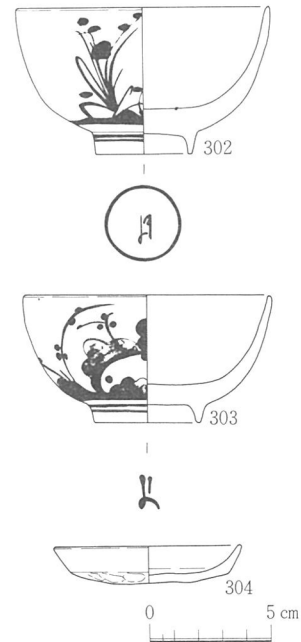
G区包含層の遺物 (第67図・図版24)

(302・303)は染付碗である。厚手で全面施釉。高台畳付の釉を削り取っている。2点共外面体部に草花文を描き、高台外面には圈線が巡る。高台裏には(302)にみられる「大明年製」のくずし文字などの銘がみられる。伊万里焼で所謂「くらわんか手」と称される一群である。

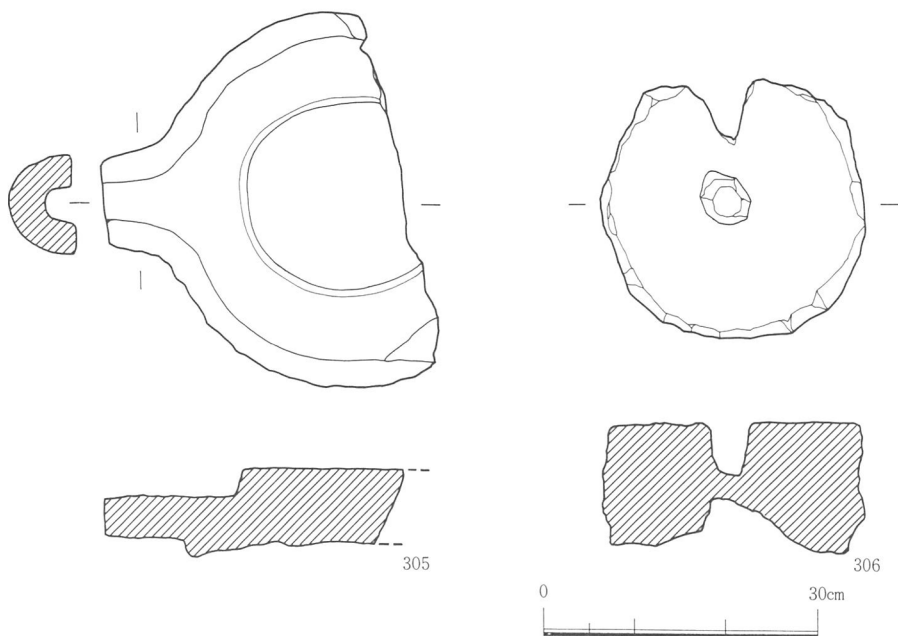
(304)は18-O Iより出土の土師質小皿である。口縁端部はヨコナデ調整、底部は指おさえである。内外面に煤が付着している。

石臼 (第68図、図版34)

G区より2点出土している。(305)は下臼であるが、受け皿部分に片口をもつ。メは刻まれていない。(306)は円柱状の石材である。(306)は中心に未貫通の孔をもつ。なお、(305)は通称「ミソ臼」あるいは「汁臼」などと呼ばれるものと思われる。石材は和泉砂岩である。



第67図 G区包含層出土遺物



第68図 G区包含層出土石製品

## 第V章 ま と め

今回の調査は、1号進入路建設予定地にかかる全長約250m、幅約12mにわたって調査をおこなった。調査区内では近～現代の削平が著しく、遺構の遺存状況はあまり良好ではなかった。ここでは、今回の調査結果を中心に、本遺跡を簡単に整理してまとめにかえたい。

本遺跡では中世以前の遺構・遺物は検出されていないが、昭和60年度の分布調査では、縄文時代から江戸時代にかけての遺物が採集されている。また、現在の舞幼稚園の所在する東側斜面部分では3基の円墳からなる塚谷古墳群が所在することなどから考えると、中世以前の遺跡が近くに存在していた可能性が考えられる。

今回の調査で一定のまとまりをもって検出される遺構・遺物は、鎌倉時代になってのことである。鎌倉時代を中心とする遺構は、B区で検出された礎石をもつ建物（100-O B）、石積み遺構（78-O X）などである。B区では平安時代後期と思われる瓦が出土することなどから、100-O Bは平安時代末から鎌倉時代前期に創建されたと推定できる。

また、B区とC区を区画する78-O Xの方向が100-O Bと一致する事などから、78-

OXは100-OBの北側を区画するために作られたものと思われる。

近世以降の遺構としては、B区で検出された23-OW、26-OO、31-OO、82~85-OX、87-OXなどが考えられる。しかし、これらに伴う建物等については削平されているため不明である。26-OOの四方に礎石が検出されており、26-OOの埋桶施設は上屋をもつものと考えられる。

この他、近世以降の遺構と思われるものはD区24-OW、G区14-OOなどがある。14-OOについては、土師質の湊焼き甕の底部が裾えられた状態で出土したことなどから、埋甕として機能していたものであろう。

次に金剛寺遺跡を遺物からみると土師質皿と瓦器碗が100-OBの床面より出土しており、土師質皿の底部処理方法は回転系切りが多い(第10図1~6、9~11)。この底部回転系切りの手法は、和泉山脈を隔てた紀伊国で14世紀代まで見られる手法で、紀伊国に特徴的な手法であるとの報告もある<sup>(1)</sup>。しかし、共伴する瓦器(第10図12~14)は和泉国でよく見られるものであり、また同じく共伴する土師質台付皿(第10図9~11)も底部回転系切り痕を有してはいるが、紀伊国では出土例をみない<sup>(3)</sup>。以上のことからこの一群の土師質皿は紀伊国の影響を受けた在地産である可能性が考えられる。寺院関係の遺物と考えられるものは、瀬戸灰釉香炉(第22図78)、灰釉燭台(第22図77)であり、「茶ノ湯」関係の瀬戸天目茶碗、中国製青磁碗なども出土している。いずれも14世紀代の遺物と思われる。また、土師小皿に墨書で密教法具である三鈷杵を十字に配した、所謂「羯磨文」を内底部に描くもの(第22図67・68)がある。紀伊国根来寺が高野山に比肩する真言密教の道場であることなどから、宗教的にも和泉国金剛寺は紀伊国根来寺の勢力下にあったものと推定できる。

以上のことから、金剛寺遺跡は平安末から鎌倉時代前期ごろに建立され、すでにこの時期より紀伊国との関係をもっていたと推測される。しかし15~16世紀を通じての遺物の出土量が少ない。推論の域を出ないが、和泉国金剛寺は、輸入陶磁器を受け入れ難い状況があったのか、もしくはその勢力が衰退縮小したのかもしれない。金剛寺遺跡は今だ不明な点が多く、今後の周辺調査の進展が期待される。

(1) 渋谷高秀「紀伊・11~14世紀代・日常雑器類の編年」『和歌山県埋蔵文化財情報17 1985年』社団法人和歌山県文化財研究会

(2) 尾上実「大阪南部の中世土器—和泉型瓦器碗—」『中近世土器の基礎研究N o 1 1985年』日本中世土器研究会

(3) 大阪府埋蔵文化財協会渋谷高秀氏から御教示。

表2 出土遺物観察表

挿図番号	器種	出土地点	法量 (ca)	色調	特徴	備考
12図-1 14図	1 土師器皿	B区 K-22KD・LD	口径 14.4 (推) 器高 4.0 底径 8.0	内面 10Y R 8/4浅黄橙色 外面 10Y R 8/3浅黄橙色 断面 10Y R 8/4浅黄橙色	烧成やや軟 側面ヨコナデ 底部回転糸切	残存90%
12図-2	2 "	B区 K-22KD・LD	口径 14.6 (推) 器高 2.95 底径 9.2 (推)	内外面 10Y R 8/3浅黄橙色 断面 2.5Y 8/3淡黄色	第12図-1と同じ	残存90%
12図-4	4 "	B区 K-22KD・LD	口径 15.0 (推) 器高 3.9 底径 11.0 (推)	内面 7.5Y R 7/6橙色 外面 7.5Y R 8/4浅黄橙色 断面 "	第12図-1と同じ	残存60% 反転復元
12図-3	3 "	B区 K-22KD・LD	口径 13.3 (推) 器高 3.7 底径 7.7 (推)	全面 7.5Y R 7/6橙色	第12図-1と同じ	残存60%
12図-5	5 "	B区 K-22KD・LD	口径 9.5 器高 2.1 底径 —	全面 7.5Y R 7/4にぶい橙色	第12図-1と同じ 底部糸切の後指おさえ	残存50% 部分反転
12図-6 14図	6 "	B区 K-22KD・LD	口径 9.4 (推) 器高 1.6 底径 6.4 (推)	内面 7.5Y R 8/4浅黄橙色 外面 5Y R 8/4淡橙色 断面 7.5Y R 8/4浅黄橙色	第12図-1と同じ	残存95%
12図-7	7 "	B区 K-22KD・LD	口径 9.4 (推) 器高 1.5 底径 5.2 (推)	内外面 10Y R 8/3浅黄橙色 断面 2.5Y 8/3淡黄色	第12図-1と同じ	残存50% 反転復元
12図-8 14図	8 "	B区 K-22KD・LD	口径 9.9 (推) 器高 1.6 底径 7.1 (推)	内外面 10Y R 8/3浅黄橙色 断面 2.5Y 8/3淡黄色	烧成軟 底部指おさえ	残存60% 部分反転
12図-9	9 "	B区 K-22KD・LD	口径 10.8 器高 2.9 底径 4.8	全面 5Y R 7/6橙色	第12図-1と同じ	残存50% 反転復元 高台付皿
12図-10	10 "	B区 K-22KD・LD	口径 10.6 器高 2.7 底径 5.8	内面 10Y R 8/6黄橙色 外面 10Y R 8/4浅黄橙色 断面 10Y R 8/4浅黄橙色	第12図-1と同じ	残存60% 反転復元 高台付皿
12図-11 14図	11 "	B区 K-22KD・LD	口径 9.0 (推) 器高 2.9 底径 4.9 (推)	全面 10Y R 8/4浅黄橙色	第12図-1と同じ	残存90% 高台付皿
12図-12 14図	12 瓦器碗	B区 K-22KD・LD	口径 8.4 器高 3.45 底径 3.9	内外面 N 5/0灰色 断面 N 8/0灰白色	ミズビキ成形 貼付け高台 烧成やや軟 高台が高く断面は台形を呈す 内面暗文 外面指おさえとミガキ	残存50% 反転復元
12図-13 14図	13 "	B区 K-22KD・LD	口径 8.2 器高 2.7 底径 3.4	内外面 10Y R 4/1褐灰色 断面 2.5Y 8/6黄色	ミズビキ成形 貼付け高台 烧成やや軟 器壁が薄く、高台が退化している	残存90%

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
12図-14 14図	瓦器碗	B区 K-22KD・LD	口径 15.6 器高 4.55 底径 4.5	内面 N 4/0灰色 外面 N 7/0灰白色 断面 2.5Y 8/3淡黄色	ミズビキ成形 貼付け高台 焼成やや軟 高台は退化し断面が三角形を呈す 内面平行線暗文 外面指おさえの後ミガキ	残存90% 歪み大 二次焼成の可能性
22図-64	土師器皿	B区 K-22MG	口径 9.05 器高 1.8 底径 6.6	全面 5YR 6/6橙色	焼成やや軟 側面ヨコナデ 内外面に煤付着	残存80% 歪み大 灯明皿
22図-65 14図	〃	B区 K-22LC・LD	口径 8.1 器高 1.6 底径 6.8	全面 10YR 8/3浅黄橙色	焼成やや軟 側面ヨコナデ 底部指おさえ	残存90% 歪み大
22図-66 14図	〃	B区 K-22LD	口径 7.7 器高 1.55 底径 5.5	全面 5YR 6/6橙色	焼成やや軟 側面ヨコナデ 底部指おさえ	残存95% 歪み大
22図-67 14図	〃	B区 K-22LD	口径 7.3 器高 15.0 底径 5.6	内外面 10YR 8/3浅黄橙色 断面 7.5YR 8/4浅黄橙色	焼成良好 側面ヨコナデ 底部指おさえ 内面に墨書きの寫磨(十字に三針杵)	残存70%
22図-68	〃	B区 K-22LD	口径 7.4 器高 1.45 底径 5.5	内外面 7.5YR 8/3浅黄橙色 断面 7.5YR 8/4浅黄橙色	第22図-67と同じ	残存80%
22図-69	〃	B区 K-22LD	口径 11.3 器高 2.25 底径 —	内外面 2.5Y 8/4淡黄色 断面 2.5Y 8/3淡黄色	第22図-66と同じ	残存70%
22図-70 14図	〃	B区 K-22LD	口径 10.9 器高 2.6 底径 —	全面 10YR 8/2灰白色	第22図-66と同じ	残存60%
22図-71 14図	瓦器碗	B区 K-22LD	口径 14.0 器高 3.2 底径 (残) —	内外面 10GY 6/1緑灰色 断面 5Y 8/3淡黄色	ミズビキ成形 焼成やや軟 内面ミガキ 外面指おさえ	残存60%
22図-72	〃	B区 K-22NG	口径 14.9 器高 2.7 底径 —	内外面 10Y 7/1灰白色 断面 10Y 8/1灰白色	ミズビキ成形 焼成良好 貼付け高台は退化し楕円形を呈す 外面指おさえ	反転復元
22図-73	〃	B区 K-22KD	口径 14.8 器高 (推) 5.0 底径 5.4	内外面 10Y 5/1灰色 断面 5Y 8/3淡黄色	ミズビキ成形 焼成軟 貼付け高台は低い断面は台形を呈す 内面平行線暗文 外面不明瞭な指おさえ	反転復元
22図-74 14図	瓦器皿	B区 K-22QH	口径 9.2 器高 1.85 底径 7.4	内面 10Y 5/1灰色 外面 5Y 4/1灰色 断面 10Y 7/1灰白色	第22図-66と同じ	残存40%
22図-75	土師器鉢	B区 K-22JE	口径 — 器高 4.0 底径 (残) —	内外面 10YR 6/3にぶい黄橙色 断面 10YR 6/4にぶい黄橙色	焼成軟 内面ヨコナデ 外面ヘラケズリ	こね鉢
22図-76	〃	B区 K-22OG	口径 — 器高 4.3 底径 (残) —	内外面 N 3/0暗灰色 断面 7.5R 3/2暗赤褐色	第22図-75と同じ	こね鉢
22図-77 16図	陶器燗台	B区 K-22OE	口径 8.8 器高 3.4 底径 (残) —	内外面 5G 7/1明緑灰色より 彩やかな緑色 断面 7.5Y 8/2灰白色	ミズビキ成形 焼成良好 皿部と脚部の接合痕あり 皿底部に穿孔 口縁端に煤付着	美濃・瀬戸系 細かい貫入



挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調		特徴	備考
				口径	器高		
22図-78	陶器 香炉	B区 K-22O E	口径 15.0 (推) 器高 13.6 底径 8.4 (推)	内外面 5 G 7/1明緑灰色より 彩やかな緑色 露胎部 5 Y 8/3淡黄色 断面 7.5 Y 8/1灰白色	ミズビキ成形 焼成良好 外面底部付近ヘラケズリ 内面体中部より外面高台脇まで施釉	反転復元 美濃・瀬戸系 細かい貫入	
22図-79	青磁 碗	B区 K-22 J C	口径 — 器高 2.2 (残) 底径 4.7	内面 10 Y 6/2オリーブ灰 色 外面 10 Y 5/2オリーブ灰 色 断面 10 Y 8/1灰白色	第35図-157と同じ 内面見込みに印花文	高台のみ 100% 残存 中国製	
22図-80	陶器 碗	B区 K-22 J E	口径 — 器高 3.5 (残) 底径 —	内外面 7.5 Y R 5/4にぶい褐色 断面 2.5 Y 8/2灰白色	ミズビキ成形 焼成良好 全面施釉 ヨコナデ調整	美濃・瀬戸系 天目茶碗	
22図-81	須恵 質鉢	B区 K-22 J E	口径 — 器高 2.5 (残) 底径 —	全面 N 6/0灰色	焼成良好 ヨコナデ調整	東播系	
22図-82	陶器 鉢	B区 K-22 N F・N G	口径 — 器高 4.9 (残) 底径 —	内面 2.5 Y 8/1灰白色 外面 7.5 Y R 6/4にぶい橙色 断面 5 Y R 5/4にぶい赤褐色		摺鉢	
24図-83 17図	瓦器 碗	A区 K-22 S K	口径 15.0 器高 4.5 底径 4.6	全面 N 5/0灰色	焼成やや軟 貼付高台 外面指おさえ 内面平行線暗文	残存80% 歪み大	
24図-84 17図	瓦器 碗	A区 K-22 S K	口径 14.3 器高 4.45 底径 4.1	全面 N 5/0灰色	焼成やや軟 貼付高台	残存70% 歪み大	
30図-85 18図	磁器 碗	B区 K-22 J C	口径 9.4 器高 5.6 底径 3.5	内外面 7.5 G Y 8/1明緑灰色より 白い 断面 N 8/0灰白色 呉須 10 B G 7/1明青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台内「大明年製」の呉須銘 外面草花文 全面施釉	残存50% 反転復元 伊万里系染付	
30図-86 18図	〃	B区 K-22 I B・J C	口径 10.5 器高 5.9 底径 4.1	内面 7.5 G Y 8/1明緑灰色 外面 7.5 G Y 8/1明緑灰色 断面 10 Y 8/1灰白色 呉須 10 B G 6/1青灰色	第30図-85と同じ 高台髷付部軸ケズリとり	残存80% 伊万里系染付	
30図-87 〃	B区 K-22 I D・J D	口径 10.0 器高 6.0 底径 4.1	内面 7.5 G Y 8/1明緑灰色 外面 10 G Y 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10 B G 6/1青灰色	第30図-85と同じ	残存50% 部分反転 伊万里系染付		
30図-88 〃	B区 K-22 M E・N E	口径 10.3 (推) 器高 6.2 底径 4.4	内外面 10 G Y 8/1明緑灰色より 白色に近い 断面 N 8/0灰白色より 白い 呉須 10 B G 7/1明青灰色より 青が強い	第30図-85と同じ 高台髷付の軸ケズリとり	残存30% 反転復元 伊万里系染付		
30図-89 〃	B区 K-22 K E	口径 10.1 (推) 器高 6.0 底径 4.1 (推)	内面 7.5 G Y 8/1明緑灰色 外面 10 G Y 8/1明緑灰色 断面 2.5 G Y 8/1灰白色 呉須 10 B G 3/1暗青灰色	第30図-85と同じ 高台髷付の軸ケズリとり	残存30% 反転復元 伊万里系染付		
30図-90 〃	B区 K-22 J C	口径 10.4 (推) 器高 5.9 底径 4.6	内外面 7.5 G Y 8/1灰白色より 白色に近い 断面 N 8/0灰白色より 白い 呉須 10 B G 6/1青灰色より 青味が強い	第30図-85と同じ 高台髷付の軸ケズリとり	残存25% 反転復元 伊万里系染付		

挿図番号 図版番号	器 種	出土地点	法 量 (cm)	色 調	特 徴	備 考
30図- 91 18図	磁 器 碗 K-22KF	B区	口径 10.0 (推) 器高 6.0 底径 4.2	内面 N 8/1灰白色 外面 N 8/1灰白色 断面 2.5GY 8/1灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色より青味が強い	第30図-85と同じ	残存60% 部分反転 伊万里系染付
30図- 92 18図	"	B区 K-22ID・JD	口径 10.4 (推) 器高 6.0 底径 4.1 (推)	内外面 5GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 8/1灰白色 呉須 10BG 6/1青灰色	第30図-85と同じ	残存50% 反転復元 伊万里系染付
30図- 93	"	B区 K-22JD	口径 10.4 器高 6.1 底径 4.1	内面 10GY 8/1明緑灰色より白い 外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 5/1青灰色	第30図-85と同じ	残存60% 反転復元 伊万里系染付
30図- 94	"	B区 K-22ME	口径 10.8 (推) 器高 6.0 底径 4.4	内外面 5 B 7/1明青灰色 断面 5 B 7/1明青灰色 呉須 5 B 5/1青灰色	第30図-85と同じ	残存40% 部分反転 伊万里系染付
30図- 95	"	B区 K-22JB	口径 10.6 (推) 器高 6.2 底径 4.6	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 10GY 8/1明緑灰色より白い 呉須 5 B 5/1青灰色より青味が強い	第30図-85と同じ 高台登付の軸ケズリとり	反転復元 伊万里系染付
30図- 96	"	B区 K-22LF・LG	口径 10.6 (推) 器高 5.7 底径 4.0	内面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色	第30図-85と同じ	残存50% 反転復元 伊万里系染付
30図- 97 18図	"	B区 K-22LF	口径 10.0 器高 5.3 底径 3.8	内面 10GY 8/1明緑灰色より白い 外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 10Y 8/1灰白色 呉須 10BG 4/1暗青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 外面草花文 全面施釉 高台登付の軸ケズリとり 高台内くずし文字による呉須銘	残存80% 伊万里系染付
30図- 98	"	B区 K-22ND	口径 9.8 (推) 器高 5.5 底径 4.1	内外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10BG 5/1青灰色	第30図-97と同じ 全面に粗い貫入あり	残存60% 反転復元 伊万里系染付
30図- 99 18図	"	B区 K-22LF	口径 10.3 (推) 器高 5.2 底径 4.6 (推)	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10BG 7/1明青灰色より青い	第30図-97と同じ	残存50% 反転復元 伊万里系染付
31図- 100 18図	"	B区 K-22JB	口径 10.8 器高 6.3 底径 4.5	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10BG 6/1青灰色より青い	第30図-97と同じ	完形 伊万里系染付
31図- 101	"	B区 K-22JB	口径 10.4 (推) 器高 5.7 底径 4.0	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色より白い 呉須 5 B 7/1明青灰色より彩やかな青色	第30図-97と同じ	残存30% 反転復元 伊万里系染付
31図- 102 18図	"	B区 K-22IB・JC	口径 10.0 器高 5.2 底径 4.2	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より薄い 断面 2.5GY 8/1灰白色 呉須 10BG 7/1明青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台登付の軸ケズリとり 外面梅花文 高台内くずし文字による呉須銘	残存50% 反転復元 伊万里系染付
31図- 103	"	B区 K-22ME・NE	口径 10.2 器高 5.2 底径 4.2	内面 5GY 8/1灰白色 外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 8/1灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色より青い	第31図- 102と同じ 外面草花文	残存30% 反転復元 伊万里系染付

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
31図-104	磁器碗	B区 K-22MF	口径 — 器高 4.3 (残) 底径 4.0 (推)	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10B G 6/1青灰色より 青い	第31図-102と同じ 外面草花文	残存40% 反転復元 伊万里系染付 全面に粗い貫入
31図-105	〃	B区 K-22LE	口径 10.0 (推) 器高 5.1 底径 4.2 (推)	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 2.5G Y 8/1灰白色 呉須 5 B G 7/1明青灰色	第31図-102と同じ 外面草花文 髷付部に珪砂付着	残存40% 反転復元 伊万里系染付
31図-106	19図	B区 K-22JB	口径 9.4 器高 5.4 底径 4.5	内面 7.5G Y 8/1明緑灰色 外面 10G Y 8/1明緑灰色 断面 5 G Y 8/1灰白色より 白い 呉須 10B G 7/1明青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台髷付の軸ケズリとり 外面コンニャク判による菊花文 高台内「大明年製」の呉須銘	部分反転 伊万里系染付 全面に細かい貫入
31図-107	〃	B区 K-22MF	口径 10.0 器高 5.4 底径 4.0	内面 2.5G Y 8/1明緑灰色より 白い 外面 10G Y 8/1明緑灰色より 白い 断面 N 8/0灰白色 呉須 10B G 6/1青灰色	第31図-106と同じ 外面草花文	残存40% 反転復元 伊万里系染付
31図-108	19図	B区 K-22JC	口径 10.0 (推) 器高 5.6 底径 4.2 (推)	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 5 G Y 8/1灰白色より 白い 呉須 10B G 7/1明青灰色より 青い	第31図-106と同じ 高台内くずし文字による呉須銘	残存60% 反転復元 伊万里系染付
31図-109	〃	B区 K-22ID・JD	口径 10.6 器高 6.3 底径 4.4	内外面 10G Y 8/1明緑灰色 断面 2.5G Y 8/1灰白色 呉須 10B G 7/1明青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台髷付以外は施釉 外面草花文	残存50% 反転復元 伊万里系染付
31図-110	19図	B区 K-22JC	口径 10.4 (推) 器高 6.2 底径 4.45 (推)	内外面 5 Y 8/1灰白色 断面 10Y 8/1灰白色 呉須 5 Y 6/1灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 (やや不透明) 高台髷付の軸ケズリとり	残存65% 反転復元 全面に粗い貫入
31図-111	19図	B区 K-22KE	口径 9.6 (推) 器高 5.5 底径 3.8 (推)	内面 10G Y 8/1明緑灰色より 白い 外面 10G Y 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10B G 4/1暗青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台髷付の軸ケズリとり 外面草花文	残存50% 反転復元 伊万里系染付
31図-112	〃	B区 K-22JD	口径 9.8 器高 5.3 底径 3.8	内外面 10G Y 8/1明緑灰色より 白い 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 5/1青灰色より 彩やかな青色	第31図-111と同じ	残存45% 反転復元
31図-113	〃	B区 K-22MG	口径 9.8 器高 5.3 底径 3.3	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10B G 7/1明青灰色	第31図-109と同じ	残存60% 反転復元
31図-114	19図	B区 K-22ID・JD	口径 10.0 (推) 器高 5.2 底径 3.9 (推)	内面 7.5G Y 8/1明緑灰色 外面 10G Y 8/1明緑灰色 断面 5 G Y 8/1灰白色より 白い 呉須 10B G 7/1明青灰色	第31図-111と同じ	残存40% 反転復元
31図-115	〃	B区 K-22MG	口径 10.4 (推) 器高 4.8 底径 3.6 (推)	内外面 10G Y 8/1明緑灰色 断面 7.5G Y 8/1明緑灰色 呉須 5 B G 6/1青灰色より ややくすんだ青色	第31図-111と同じ 内面見込み輪状に軸ケズリとり	残存30% 反転復元

挿図番号 図版番号	器 種	出土地点	法 量 (cm)	色		特 徴	備 考
				調			
31図-116	磁器碗	B区 床土内	口径 10.4 (推) 器高 5.2 底径 4.4 (推)	内外面 7.5G Y 7/1明緑灰色より り白い 断面 N 8/0灰白色より やや白い 呉須 10B G 7/1明青灰色		第31図-111と同じ 高台内「大明年製」の呉須銘	反転復元
31図-117 19図	〃	B区 K-22J C	口径 9.7 (推) 器高 5.25 底径 3.7 (推)	内外面 10G Y 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色より 彩やかな青色		第31図-111と同じ 外面梅花文	残存60% 反転復元
32図-118 19図	〃	B区 K-22N F	口径 11.2 断面 5.1 底径 4.6	内外面 10 Y 8/1灰白色 断面 2.5 Y 8/2灰白色 呉須 5 B G 6/1青灰色		第31図-111と同じ 内面見込み輪状に軸ケズリとり	残存80% 内面見込みに 重ね焼の痕跡
32図-119	〃	B区 K-22J E	口径 10.7 器高 5.3 底径 4.0	内面 2.5G Y 7/1明オリーブ 灰色 外面 5 G Y 8/1灰白色 断面 2.5G Y 8/1灰白色 呉須 10G Y 6/1緑灰色より くすんでいる		第31図-111と同じ 外面コンニャク判による菊花文 内面見込み輪状に軸ケズリとり	残存70%
32図-120	〃	B区 K-22L F・L G	口径 10.8 (推) 器高 5.5 底径 4.0	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 7.5 Y 8/2灰白色 呉須 10B G 7/1明青灰色より 青い		第31図-111と同じ 外面横縞文 高台内に呉須による圏線	残存60% 部分反転
32図-121	〃	B区 K-22N G	口径 10.2 (推) 器高 4.9 底径 4.0 (推)	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色より 白い 呉須 10B G 6/1青灰色より 白い		第31図-111と同じ 外面二重網目文 高台置付に硅砂溶着	反転復元
32図-122 19図	〃	B区 K-22N D	口径 10.0 (推) 器高 4.7 底径 3.9 (推)	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10B G 6/1青灰色		第31図-111と同じ 外面二重網目文	残存40% 反転復元
32図-123 20図	〃	B区 K-22M G	口径 9.1 (推) 器高 4.9 底径 3.2 (推)	内外面 N 8/0灰白色より 淡い青色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色より 彩やかな青色		第31図-111と同じ 外面唐草文	残存60% 反転復元
32図-124	〃	B区 K-22J C	口径 9.8 器高 5.6 底径 4.1	内外面 7.5G Y 8/1明青灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10B G 6/1青灰色		ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台置付以外は施軸 高台内「大明年製」の呉須銘 外面コンニャク判による菊花文	残存50% 部分反転
32図-125 20図	〃	B区 K-22L D	口径 9.8 器高 5.3 底径 4.2	内外面 2.5G Y 8/1灰白色 断面 2.5G Y 8/1灰白色 呉須 5 G 3/1暗緑灰色		第31図-111と同じ 高台内「大明年製」の呉須銘 外面コンニャク判による菊花と団扇	残存60% 反転復元
32図-126 20図	〃	B区 K-22L D	口径 9.0 器高 5.1 底径 3.4	内外面 10G Y 8/1明緑灰色より り白い 断面 5 G Y 8/1灰白色 呉須 10B G 7/1明青灰色より 青い		第31図-111と同じ 高台内「大明年製」の呉須銘 外面梅花文	残存85%
32図-127 20図	〃	B区 K-22K E	口径 13.0 器高 5.7 底径 4.3	内外面 N 8/0灰白色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色より 彩やかな青色		ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施軸 外面草花文 高台内「大明年製」の呉須銘	残存90%
32図-128	〃	B区 K-22L F・L G	口径 9.6 (推) 器高 5.7 底径 3.8 (推)	内外面 7.5G Y 8/1明緑灰色 断面 7.5 Y 8/1灰白色 呉須 10B G 7/1明青灰色より 青い		第31図-111と同じ 外面コンニャク判による円形の幾何学文	残存25% 反転復元 外面に粗い貫入

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
図版番号						
32図-129	磁器碗	B区 K-22JC・JD	口径 10.6 (推) 器高 7.0 底径 5.6 (推)	内面 10GY 8/1明緑灰色より淡い 外面 7.5GY 8/1明緑灰色より淡い 断面 N 8/1灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色より青味が強い	第31図-111と同じ	残存50% 反転復元
32図-130 20図	〃	B区 K-22JC	口径 9.8 器高 6.9 底径 4.2	内面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 N 8/0灰白色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 5/1青灰色	第31図-111と同じ 外面一重網目文	残存95%
32図-131 20図	〃	B区 K-22KC・KD	口径 9.8 器高 6.9 底径 4.0	内外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 2.5Y 8/2灰白色 呉須 10GY 5/1緑灰色	第31図-111と同じ 高台畳付と内面は露胎	残存55% 部分反転
32図-132	〃	B区 K-22JE	口径 8.1 (推) 器高 4.5 底径 3.3 (推)	内外面 N 8/0灰白色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色より彩やかな青色	第31図-111と同じ 高台内「大明年製」の呉須銘	残存40% 反転復元
32図-133 20図	〃	B区 K-22ID・JD	口径 9.6 器高 4.2 底径 3.3	内面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 N 8/0灰白色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 5/1青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台内以外は施釉 内面口縁端部に四方禪文 外面蕉葉文	残存45% 反転復元
32図-134 20図	〃	B区 K-22MG	口径 12.0 器高 6.2 底径 4.5	内面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 2.5GY 灰白色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 5/1青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 外面風景文 内面見込みに花文と二条の圏線	部分反転
33図-135 21図	〃	B区 K-22JC	口径 8.6 器高 4.9 底径 4.6	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色よりやや灰白 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 5/1青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 腰部が直角に屈曲 外側面斜交線文 内面見込みに五弁花の印判	残存35% 反転復元
33図-136 21図	〃	B区 K-22JC	口径 7.4 器高 5.1 底径 3.3	内面 2.5GY 8/1明緑灰色 外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 7.5GY 5/1緑灰色	第33図-135と同じ 外面草花文 高台畳付の釉ケズリとり	残存95%
33図-137	青磁碗	B区 K-22LE	口径 7.2 器高 5.6 底径 4.0	内外面 10GY 8/1明緑灰色より白に近い 断面 N 8/0灰白色 呉須 10BG 5/1青灰色	第33図-135と同じ 腰部がやや内傾 内面口縁端部に四方禪文 高台畳付の釉ケズリとり	反転復元
33図-138 21図	磁器碗	B区 K-22KE	口径 9.5 器高 6.3 底径 4.6	内面 2.5GY 7/1明オリーブ灰色 外面 5GY 7/1明オリーブ灰色 断面 2.5GY 7/1明オリーブ灰色 呉須 5GY 6/1オリーブ灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉(やや不透明) 腰部は丸味を持つ 外面コンニャク判による松の文様	残存50% 反転復元
33図-139	〃	B区 K-22JC	口径 7.8 (推) 器高 6.5 底径 5.2 (推)	内外面 N 8/0灰白色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 4/1暗青灰色	第33図-138と同じ 外面風景文	残存30% 反転復元 蓋物
33図-140	磁器皿	B区 K-22JC	口径 13.8 器高 3.2 底径 5.3	内面 10GY 8/1明緑灰色 外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 6/1青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台畳付以外は施釉 内面樹木のある風景	残存30% 反転復元
33図-141	〃	B区 床土内	口径 13.2 (推) 器高 3.4 底径 4.2 (推)	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より白い 断面 2.5GY 8/1灰白色より白い 呉須 10BG 7/1明青灰色より青い	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台畳付と内面見込み輪状に釉ケズリとり 内面圏線2条と斜交線文	反転復元

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cn)	色調	特徴	備考
33図-142 21図	磁器蓋 K-22L E	B区	口径 10.6 (推) 器高 3.0 底径 4.9	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 6/1明青灰色より 彩やかな青色	ミズビキ成形 つまみ部ケズリ出し 焼成良好 全面施釉 つまみ端部の軸ケズリとり 内面二条の圈線と端部に四方禪文 外面花文	残存40% 反転復元
33図-143	磁器碗 K-22L D	B区	口径 9.6 (推) 器高 7.1 底径 6.2	内外面 10GY 8/1明緑灰色より 白い 断面 N 8/0灰白色より 白い 呉須 10BG 7/1明青灰色より 青味が強い	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台畳付と口縁端部のみ軸ケズリとり 外面牡丹唐草 高台内「角福」の呉須銘	反転復元
33図-144	磁器瓶 K-22J C	B区	口径 — 器高 6.8 (残) 底径 4.85 (推)	内外面 10Y 8/2灰白色 断面 N 8/0灰白色 呉須 7.5GY 6/1緑灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台畳付の軸ケズリとり 外面草花文	残存30% 反転復元 (徳利)
34図-145 22図	磁器大皿 K-22J D	B区	口径 19.4 器高 6.3 底径 9.5	内外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 6/1明青灰色より 彩やかな青色	第33図-144と同じ 内面見込み中央に五弁花の印判 側面は4区西に竹と葉 外面唐草文 高台内「福」のくずし銘	残存80% 反転復元 砕砂溶着
34図-146	磁器瓶 K-22J C	B区	口径 3.4 (推) 器高 8.4 (残) 底径 —	内面 10Y 8/1灰白色 外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 10Y 8/1灰白色 呉須 5 B 7/1明青灰色	ミズビキ成形 焼成良好 全面施釉 外面草花文	残存30% 反転復元 口縁部歪みあり (徳利)
34図-147 22図	磁器杯 K-22J C	B区	口径 7.4 (推) 器高 3.6 底径 2.8	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より やや白い 断面 N 8/0灰白色より 白い 呉須 10BG 5/1青灰色より 青い	第34図-146と同じ 高台畳付の軸ケズリとり 外面コンニャク判	反転復元
34図-148	” K-22MG	B区	口径 7.0 (推) 器高 3.2 底径 2.7	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10BG 3/1暗青灰色	第34図-146と同じ 外面雁	残存40% 反転復元
34図-149 22図	磁器高脚杯 K-22MG	B区	口径 7.4 (推) 器高 4.9 底径 4.0	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 7.5GY 8/1明緑灰色より 白い 呉須 5 B 5/1青灰色より 彩やかな青色	ミズビキ成形 脚部ケズリ出し 焼成良好 全面施釉 コンニャク判を重ねて押す	残存60% (仏飯碗)
34図-150 22図	” K-22J C・J D	B区	口径 7.2 器高 5.0 底径 4.5	内面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 10GY 7/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 10BG 6/1青灰色	ミズビキ成形 脚部ケズリ出し 焼成良好 脚すそ部以外は施釉 口縁端部内外面とも圈線を巡らす	残存95% 二次焼成 (仏飯碗)
34図-151 22図	” K-22J B	B区	口径 8.8 器高 5.5 底径 4.3	内外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 8/1灰白色 呉須 10BG 7/1明青灰色	ミズビキ成形 脚部ケズリ出し 焼成良好 脚すそ部以外は施釉	(仏飯碗)
34図-152 22図	” K-22J D	B区	口径 8.4 器高 4.0 (残) 底径 —	内面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 N 8/0灰白色 呉須 5 B 5/1青灰色	ミズビキ成形 焼成良好 全面施釉 外面草花文	杯部残存30% 部分反転 (仏飯碗)
34図-153 ”	B区 K-22I D・J D		口径 7.9 器高 7.1 底径 4.2	内外面 N 8/0灰白色 断面 2.5GY 8/1灰白色 呉須 5 B 6/1青灰色より 彩やかな青色	第34図-152と同じ 脚部ケズリ出し 畳付の軸ケズリとり	残存60% 部分反転 (仏飯碗)
34図-154 ”	B区 K-22J E		口径 — 器高 5.1 (残) 底径 4.0	内外面 2.5GY 7/1暗オリーブ 灰色 断面 10Y 8/1灰白色 呉須 10G 6/1緑灰色	ミズビキ成形 脚部ケズリ出し 焼成良好 畳付より上部は全面施釉	部分反転 (仏飯碗)

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
34図-155	磁器高脚杯	B区 K-22KD・KE	口径 — 器高 4.5 (残) 底径 5.0	内外面 10Y 8/1灰白色 外面 7.5Y 8/2灰白色 断面 7.5Y 8/2灰白色 裏須 5 B 6/1青灰色より 彩やかな青色	ミズビキ成形 脚部ケズリ出し 焼成良好 全面施釉 脚端部の釉ケズリとり 杯部は皿状を呈す	脚部完形 杯部部分反転
34図-156	"	B区 K-22JF	口径 — 器高 5.4 (残) 底径 4.8 (推)	内外面 10Y 8/2灰白色 断面 N 8/0灰白色 裏須 5 B 7/1明青灰色より 彩やかな青色	ミズビキ成形 脚部ケズリ出し 焼成良好 全面施釉 杯部は皿状を呈す	残存70% 反転復元
35図-157	白磁碗 23図	B区 K-22JC	口径 10.4 器高 5.2 底径 4.4	全面 10Y 8/1灰白色より 白い	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台畳付の釉ケズリとり	完形
35図-158	23図	B区 K-22JC	口径 10.0 (推) 器高 6.1 底径 3.9 (推)	内外面 N 8/0灰白色より 白い 断面 10Y 8/1灰白色	第35図-157と同じ	残存40% 反転復元
35図-159	23図	B区 床土内	口径 10.8 (推) 器高 5.4 底径 5.2 (推)	内外面 10Y 8/1灰白色 断面 N 8/0灰白色	第35図-157と同じ	残存30% 反転復元
35図-160	23図	B区 K-22JC	口径 11.4 器高 6.6 底径 4.4	全面 N 8/0灰白色	第35図-157と同じ 外面底部は回転ヘラケズリ	残存90%
35図-161	白磁皿 23図	B区 K-22ID・JD	口径 10.45 器高 3.25 底径 3.6	全面 N 8/0灰白色より 白い	第35図-157と同じ 外面底部は回転ヘラケズリ	残存80%
35図-162	23図	B区 K-22MG	口径 8.9 (推) 器高 2.2 底径 3.4 (推)	全面 N 8/0灰白色より 白い	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台内部と畳付以外は施釉 内面見込み輪状に釉ケズリとり	残存40% 反転復元
35図-163	23図	B区 K-22LC・LD	口径 9.2 (推) 器高 2.2 底径 3.1 (推)	全面 N 8/0灰白色より 白い	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 内面見込み輪状に釉ケズリとり	残存20% 反転復元
35図-164	白磁杯 23図	B区 K-22ND	口径 7.0 (推) 器高 3.6 底径 2.7 (推)	内外面 2.5GY 8/1灰白色 断面 N 8/0灰白色	第35図-157と同じ	残存50% 反転復元 (ぐいのみ)
35図-165	23図	B区 K-22JC	口径 7.9 (推) 器高 2.8 底径 3.7 (推)	全面 N 8/0灰白色より 白い	第35図-157と同じ	残存40% 反転復元
35図-166	白磁蓋 23図	B区 K-22JC	口径 8.0 器高 1.95 つまみ径 3.1	全面 N 8/0灰白色より 白い	ミズビキ成形 つまみケズリ出し 焼成良好 全面施釉 つまみ端部釉ケズリとり	残存95%
35図-167	23図	B区 K-22JB	口径 10.2 器高 4.5 つまみ径 2.1 かえり径 7.2	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より 白色に近い 断面 2.5GY 8/1灰白色より 白色に近い	ミズビキ成形 外面ヘラケズリ つまみ部かえり貼り付け つまみから口縁端部施釉 内面に輪状に窯道具の痕跡	完形

挿図番号 図版番号	器 種	出土地点	法 量 (cm)	色 調	特 徴	備 考
35図-168 23図	白磁 有蓋 壺	B区 K-22JB	口径 17.0 器高 14.2 底径 6.4	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より 白色に近い 断面 2.5GY 8/1灰白色より 白色に近い	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 外面体部にカンナ痕の単位 頸部と下部に細かい沈線を配す 口縁内側から外面全部を施釉 高台付付と口縁端部の釉ケズリとり	反転復元 第35図-167 とセット
35図-169	白磁 壺	B区 K-22JD	口径 — 器高 2.2 (残) 底径 5.0	内面 2.5GY 8/1灰白色 外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 8/1灰白色	第35図-157と同じ 外面施釉	残存30%
35図-170	白磁 蓋	B区 K-22OH	口径 6.0 器高 5.0 底径 6.0	内外面 N 8/0灰白色 断面 2.5Y 8/1灰白色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 内面施釉	残存30%
35図-171 15図	陶器 碗	B区 K-22MC	口径 9.4 (推) 器高 6.7 底径 4.8 (推)	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 10YR 7/3にぶい黄橙 色 呉須 10G 7/1明緑灰色より 彩やかな青緑色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 外面体部にソーダ色の釉を施す 内面は白濁釉	残存40% 反転復元
35図-172	"	B区 K-22OD	口径 — 器高 5.5 (残) 底径 5.1	内面 7.5Y 6/1灰色 外面 10YR 5/2灰黄褐色 断面 10YR 7/1灰白色 呉須 10YR 4/2灰黄褐色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面灰釉を施釉 唇付の釉ケズリとり 外面鉄絵	残存30% 部分反転 全面に粗い貫 入
35図-173 15図	"	B区 K-22KE	口径 9.2 (推) 器高 6.7 底径 4.0 (推)	内外面 2.5Y 7/4浅黄色 断面 5Y 8/3淡黄色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台唇付の釉ケズリとり	残存50% 反転復元 全面に細かい 貫入
35図-174	"	B区 K-22IC・ID	口径 9.2 器高 6.8 底径 4.5	内外面 10YR 7/3にぶい黄橙 色 断面 2.5Y 8/2灰白色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉	部分反転 全面に細かい 貫入
36図-175 15図	"	B区 K-22MG	口径 11.7 (推) 器高 6.0 底径 4.4	内外面 10YR 6/2灰黄褐色 断面 10YR 7/3にぶい黄橙 色 白濁釉 5Y 8/2灰白色	第35図-173と同じ	残存60% 反転復元 唐津系刷毛目 碗
36図-176 15図	"	B区 K-22JC	口径 10.9 器高 5.7 底径 3.6	内面 2.5Y 6/1黄灰色 外面 2.5Y 6/2灰黄色 断面 2.5Y 8/3淡黄色 白濁釉 5Y 8/2灰白色	第35図-173と同じ 内面見込み輪状に釉ケズリとり	残存95% 唐津系刷毛目 碗
36図-177 15図	"	B区 K-22JE	口径 10.4 器高 6.2 底径 4.4	内外面 10YR 6/3にぶい黄橙 色 断面 2.5Y 8/2灰白色 白濁釉 5Y 8/2灰白色	第35図-173と同じ 内面白濁釉をうずまき状に施釉	残存60% 反転復元 唐津系刷毛目 碗 全面に細かい 貫入
36図-178	陶器 皿	B区 K-22KE	口径 10.4 (推) 器高 2.8 底径 3.6	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より 灰色 断面 5YR 8/3淡橙色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 外面回転ヘラケズリ 内面に鉄絵 内面と外面上半部施釉 内面見込み輪状に釉ケズリとり	反転復元 重ね焼の痕跡
36図-179	"	B区 K-22MF	口径 10.4 器高 2.6 底径 4.4	内外面 5BG 6/1青灰色 断面 5YR 5/3にぶい赤褐 色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台以外は施釉 内面見込み輪状に釉ケズリとり	細かい気泡を 多く含む
36図-180 15図	"	B区 K-22JB	口径 10.1 器高 2.8 底径 3.25	内外面 7.5Y 6/1灰色 露胎部 5YR 6/3にぶい橙色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 内面と外面体中部まで施釉 内面見込み輪状に釉ケズリとり 珪砂溶着	完形
36図-181	陶器 碗	B区 K-22JB	口径 13.1 器高 4.7 底径 4.7	内外面 5Y 8/3淡黄色 断面 7.5Y 8/2灰白色 絵付 5GY 6/1オリーブ灰 色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台以外は施釉 高台裏に「山の」のスタンプ 器壁は薄い 内面鉄絵による下絵付 舟と人	残存80% 京焼 全面に細かい 貫入



挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
36図-182	陶器碗	B区 K-22MC	口径 — 器高 2.3 (残) 底径 3.7	全面 絵付 2.5Y 8/2灰白色 7.5R 4/6赤色 5B 7/1明青灰色 5G 7/1明緑灰色より 彩やかな緑色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台以外は施釉 器壁は薄い 内面上絵付 花	高台 100%残 存 京焼
36図-183	〃	B区 K-22JC	口径 12.65 器高 4.8 底径 4.0	内外面 断面 10Y 7/2灰白色 5Y 8/3淡黄色 絵付 7.5R 4/6赤色 5B 7/1明青灰色 5G 7/1明緑灰色より 彩やかな緑色	第36図-182と同じ 内面上絵付 竹	残存80% 京焼
36図-184	〃	B区 K-22ME・NE	口径 9.5 器高 4.9 底径 3.4	内外面 断面 7.5Y 8/2灰白色 7.5Y 8/2灰白色より 白い 絵付 5GY 6/1オリーブ灰 色	第36図-182と同じ 内面鉄釉による下絵付 草とトンボ	残存75% 京焼
36図-185	〃	B区 K-22MF	口径 9.8 (推) 器高 5.8 底径 2.8 (推)	内外面 断面 10Y 8/2灰白色 10Y 8/1灰白色 絵付 7.5R 4/6赤色 7.5GY 7/1明緑灰色より 彩やかな緑色	第36図-182と同じ 外面上絵付 花	残存35% 反転復元 京焼
36図-186	〃	B区 K-22NF・NG	口径 — 器高 2.5 (残) 底径 5.0	内外面 断面 5YR 2/1黒褐色 5Y 8/2灰白色 露胎 5Y 8/2灰白色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台付近以外は施釉	残存20% 天目茶碗 産地不明
36図-187	陶器皿	B区 K-22JE	口径 11.6 器高 2.5 底径 4.4	施釉部 5Y 8/1灰白色 断面 7.5Y 6/1灰白色 露胎部 10YR 7/2にぶい黄橙 色	ミズビキ成形 ヘラケズリによるゴケ底 焼成良好 内面に貼付け型押しによる菊花文 内面と口縁外面施釉	反転復元 産地不明
36図-188	陶器碗	B区 K-22JD	口径 12.6 器高 7.2 底径 5.2	施釉部 2.5Y 5/6黄褐色 露胎部 5Y 8/3淡黄色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 粘性のある釉が内面より外面体部下半 まで施釉	残存80% 瀬戸・美濃系 灰釉茶碗
36図-189	〃	B区 K-22JB	口径 10.4 器高 5.3 底径 4.1	内外面 断面 7.5Y 7/2灰白色 7.5Y 8/2灰白色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 内面より外面体部まで施釉 外面鉄絵 器壁が腰部より直立	残存80%
36図-190	〃	B区 K-22JD	口径 9.8 器高 5.5 底径 3.9	内外面 断面 10Y 8/2灰白色 7.5Y 8/2灰白色	第36図-189と同じ	残存45%
36図-191	〃	B区 K-22LF	口径 7.2 器高 5.4 底径 3.6 (推)	内外面 断面 5Y 8/1灰白色 7.5Y 8/1灰白色 露胎部 7.5Y 8/1灰白色	第36図-189と同じ 高台内と畳付以外は施釉	残存45% 反転復元
36図-192	〃	B区 K-22ME・NE	口径 — 器高 2.2 (残) 底径 4.0 (推)	内面 5Y 7/2灰白色 外面 5Y 8/2灰白色 断面 5Y 8/2灰白色	第36図-189と同じ 高台内と畳付以外は施釉	反転復元
36図-193	陶器壺	B区 K-22KE	口径 7.2 器高 3.1 底径 3.8	施釉部 10Y 8/1灰白色 露胎部 7.5Y 8/1灰白色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 外面回転ヘラケズリ 高台以外は施釉 (灰釉)	やや粗い貫入
37図-194	陶器甕	B区 K-22MG	口径 23.3 器高 19.4 底径 11.5	内面 2.5YR 4/4オリーブ褐 色 外面 2.5YR 4/3にぶい赤褐 色 断面 2.5YR 6/1赤灰色	ロクロ成形 外面下半ヘラケズリ 焼成良好 外面刷毛による2単位の波状文	反転復元 刷毛目唐津

挿図番号 図版番号	器 種	出土地点	法 量 (cm)	色 調	特 徴	備 考
37図-195	〃	B区 K-22LG	口径 17.55 (推) 器高 6.75 (残) 底径 —	全面 2.5YR 3/3暗赤褐色	ロクロ成形 回転ナデ 焼成良好 外面鉄釉	反転復元 大谷焼
37図-196	陶器 甕	B区 K-22ID・JD	口径 40.6 (推) 器高 17.0 (残) 底径 —	内面 10R 4/2灰赤色 外面 10R 3/2暗赤褐色 断面 10YR 7/1灰白色	ロクロ成形 回転ナデ 焼成良好 全面施釉	大谷焼
37図-197	〃	B区 K-22MF	口径 12.4 器高 14.6 (推) 底径 9.3	内外面 5YR 2/2黒褐色 断面 5Y 8/3淡黄色	ロクロ成形 焼成良好 底部外面以外は施釉	残存50% 反転復元 大谷焼
37図-198	陶器 蓋	B区 K-22MG	口径 11.1 器高 4.5 底径 3.6	内面 7.5YR 3/2黒褐色 外面 7.5YR 4/1褐灰色 断面 5Y 5/1灰色	ミズビキ成形 焼成良好 かえり外面以外は全面施釉	残存60% 刷毛目
37図-199 15図	〃	B区 K-22KD	口径 5.8 (推) 器高 2.4 底径 —	内面 10YR 3/1黒褐色 外面 10YR 6/3にぶい黄橙 色 断面 5Y 6/2灰オリーブ 色	ミズビキ成形 外面底部回転ヘラケズリ 焼成良好 内面からかえり端部まで施釉 口縁端部釉ケズリとり	残存30% 反転復元 トチリ鍋蓋
37図-200	〃	B区 K-22JC	口径 11.05 器高 1.9 つまみ径2.45	内面 5YR 4/2灰褐色 外面 2.5Y 7/3浅黄色 断面 5Y 8/2灰白色	ミズビキ成形 焼成良好 貼付けつまみは菊花の型押し 外面のみ施釉	残存80%
38図-201 16図	陶器 鉢	B区 K-22MF	口径 29.8 器高 13.3 底径 11.0	施釉部 5Y 3/2オリーブ黒 色 露胎部 5YR 3/4暗赤褐色 断面 波状文 10YR 7/1灰白色	マキアグミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 内面より口縁外面まで施釉 露胎部に化粧掛け	残存40% 部分反転 唐津焼片口鉢
38図-202 16図	〃	B区 K-22MF	口径 16.8 器高 8.9 底径 9.2	内面 2.5Y 7/4浅黄色 外面 2.5Y 7/6明黄褐色 断面 7.5Y 8/2灰白色	マキアグミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 外面口縁から体部下半まで施釉 高台内に「キヤ」の墨書	残存50% 反転復元
38図-203	陶器 瓶	B区 K-22MG	口径 — 器高 13.6 (残) 底径 8.4 (推)	内面 10YR 5/1褐灰色 外面 7.5YR 5/3にぶい褐色 断面 10Y 6/1灰色	マキアグミズビキ成形 焼成良好 頸部外面にヘラ記号 外面下半はヘラケズリ調整	残存40% 反転復元 備前焼 (徳利)
38図-204	陶器 建水	B区 K-22LF	口径 13.1 器高 6.8 底径 13.0	内面 2.5YR 4/1赤灰色 外面 2.5YR 5/2灰赤色 断面 10B G 7/1明青灰色	マキアグミズビキ成形 焼成良好 底部糸切り	残存25% 反転復元 備前焼
38図-205 16図	陶器	B区 K-22JE	残存長 14.0 器高 3.6 幅 3.6	内外面 2.5GY 7/1明オリーブ 灰色 断面 N 8/0灰白色 絵付 5 G 7/1明オリーブ 灰色	焼成良好 外面に葉文 底部外面以外は施釉	残存70% ビンダライ
38図-206	陶器 花生	B区 K-22LF・LG	口径 12.6 (推) 器高 17.3 底径 12.8	内面 10R 4/3赤褐色 外面 5YR 4/2灰褐色 断面 7.5Y 8/2灰白色	マキアグミズビキ成形 焼成良好 口縁外面に13本の沈線を持つ 内面下半と口縁部内面から外面底部まで 施釉	残存35% 反転復元 信楽焼
39図-207	陶器 摺鉢	B区 K-22MF	口径 28.0 (推) 器高 11.6 底径 11.8 (推)	内外面 10R 3/3暗赤褐色 断面 10R 2/1赤黒色 10R 4/6赤色	マキアグミズビキ成形 焼成良好 スリ目 1単位13本	残存45% 反転復元 備前焼

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
39図-208 16図	陶器 摺鉢	B区 K-22JB	口径 28.2 器高 12.7 底径 13.0	内面 2.5Y R 4/8赤褐色 外面 { 2.5Y R 4/6赤褐色 2.5Y R 2/4極暗赤褐色 断面 2.5Y R 4/8赤褐色	第39図-207と同じ スリ目 1単位15本	残存95% 備前焼
39図-209 16図	"	B区 K-22MG	口径 33.0 (推) 器高 15.0 底径 15.8 (推)	内外面 10R 3/1暗赤灰色 断面 10R 3/4暗赤色	第39図-207と同じ スリ目 1単位12本	残存70%
39図-210 16図	"	B区 K-22IC・ID	口径 — 器高 9.0 (推) 底径 9.2	内外面 2.5Y R 2/4極暗赤褐色 断面 2.5Y R 8/2灰白色	第39図-207と同じ スリ目 1単位13本	残存65% 部分反転
40図-211	土師 器皿	B区 K-22LD	口径 6.9 器高 6.8 底径 —	内面 7.5Y R 6/6橙色 外面 7.5Y R 7/6橙色 断面 7.5Y R 6/6橙色	第22図-66と同じ	残存70%
40図-212 14図	"	B区 K-22LD	口径 6.7 器高 1.0 底径 —	内面 7.5Y R 7/6橙色 外面 7.5Y R 7/4にぶい橙色 断面 7.5Y R 7/4にぶい橙色	第22図-66と同じ	残存95%
40図-213	"	B区 K-22LD	口径 6.55 器高 0.9 底径 —	全面 7.5Y R 7/4にぶい橙色	第22図-66と同じ	残存80%
40図-214	"	B区 K-22LD	口径 6.5 器高 9.5 底径 —	全面 7.5Y R 7/6橙色	第22図-66と同じ	完形
40図-215	"	B区 K-22LD	口径 6.5 器高 8.5 底径 —	内面 5Y R 7/4にぶい橙色 外面 10Y R 7/3にぶい黄橙 断面 5Y R 7/4にぶい橙色	第22図-66と同じ	残存95%
40図-216 14図	"	B区 K-22ID・JD	口径 8.15 器高 1.55 底径 —	内外面 7.5Y R 7/4にぶい橙色 断面 10Y R 6/2灰黄褐色	焼成やや軟 底部回転系切り 内面から口縁外面まで施釉 口縁部煤付着	残存95%
40図-217 14図	"	B区 K-22ID・JD	口径 10.8 器高 2.05 底径 —	内外面 2.5Y R 6/4にぶい橙色 断面 2.5Y R 6/3にぶい橙色	焼成良好 内面施釉 口縁内面に3ヶ所の粘土塊を貼付 口縁部に煤付着	残存90%
40図-218 14図	"	B区 K-22LD	口径 11.8 (推) 器高 2.1 底径 —	内面 2.5Y R 2/2極暗赤褐色 外面 5Y R 5/2灰褐色 断面 2.5Y R 3/2暗赤褐色	焼成良好 内面施釉 口縁外面に取手状の粘土塊を貼付	残存40% 反転復元
40図-219 14図	"	B区 K-22ID・JD	口径 10.1 器高 1.85 底径 —	内面 5Y R 6/6橙色 外面 7.5Y R 7/4にぶい橙色 断面 5Y R 7/6橙色	焼成良好 底部回転系切り 内面から口縁外面まで施釉	残存70%
40図-220	"	B区 K-22LE	口径 6.6 (推) 器高 1.2 底径 —	内面 7.5Y R 6/8橙色 外面 5Y R 5/8明赤褐色 断面 7.5Y R 8/3浅黄褐色	焼成やや軟 全面施釉 底部回転系切り	反転復元 灯明皿
40図-221	"	B区 K-22ME・NE	口径 10.4 (推) 器高 2.1 底径 —	内外面 10Y R 6/4にぶい黄橙 断面 10Y R 1.7/1黒色	焼成良好	反転復元
40図-222 14図	"	B区 K-22KC	口径 11.2 器高 2.25 底径 —	内面 10Y R 8/2灰白色 外面 10Y R 8/3浅黄褐色 断面 10Y R 7/2にぶい黄橙 色	焼成やや軟 底部回転系切り 口縁部に煤付着	残存40%

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
40図-223	土師器皿	B区 K-22JB・JC	口径 10.6 器高 1.9 底径 6.6	全面 10YR 7/4にぶい黄橙色	焼成やや軟 底部回転系切り 口縁部に煤付着	残存40%
40図-224	〃	B区 K-22OG	口径 10.0 器高 2.3 底径 —	内面 2.5Y 5/2暗灰黄色 外面 10Y 4/1灰色 断面 N 3/0暗白色	焼成やや軟 口縁付近ヨコナデ	残存90%
40図-225	瓦質皿	B区 K-22OG	口径 9.6 (推) 器高 1.3 (残) 底径 —	内外面 7.5Y 8/2灰白色 断面 5Y 7/1灰白色 口縁端部 5B 3/1暗青灰色	焼成良好 側面ヨコナデ 外面底部指おさえ	残存25% 反転復元
40図-226	陶質皿	B区 K-22ME・NE	口径 10.4 器高 1.5 底径 4.0	内外面 10R 5/3赤褐色 断面 10R 5/6赤色	焼成良好 外面底部ヘラケズリ 内面から口縁外面まで施釉	
40図-227	土師器 器 炬 焙	B区 K-22JC	口径 30.6 (推) 器高 8.8 底径 —	内面 7.5YR 7/4にぶい橙色 外面 10YR 7/4にぶい黄橙色 断面 7.5YR 7/4にぶい橙色	焼成やや軟 口縁部ヨコナデ 外面煤付着	残存30% 反転復元 歪み大
40図-228	〃	B区 K-22KF	口径 23.8 (推) 器高 3.55 底径 20.7 (推)	内外面 7.5YR 6/8褐色 断面 7.5YR 7/8黄褐色	外側面に指おさえ	反転復元
40図-229	陶質土 鏝	B区 K-22OH	口径 3.4 器高 4.0	内面 7.5YR 6/2灰褐色 外面 10YR 4/1灰褐色	焼成良好 外側面に2段の指おさえ	完形
40図-230 16図	土師器 火 舎	B区 K-22ME・NE	口径 17.4 (推) 器高 6.5 底径 —	全面 7.5YR 5/4にぶい褐色	焼成やや軟 外面ヘラケズリの後ナデ調整 貼付の三脚 口縁は肥厚 煤付着	残存30%
56図-285 24図	磁器 皿	C区 K-21EY	口径 13.6 器高 3.55 底径 7.5	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より 白い 断面 7.5Y 8/1灰白色より 白い 呉須 5B 6/1青灰色より 明るい	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台内「大明年製」の呉須銘 内面扇と草花文 外面唐草	残存90% 伊万里焼染付
56図-286 24図	〃	C区 K-21EY	口径 14.4 (推) 器高 3.4 底径 7.8 (推)	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色より 白い 断面 7.5Y 8/1灰白色より 白い 呉須 5B 6/1青灰色より 明るい	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 高台内「・・・製」の呉須銘 内面扇と波文	残存50% 伊万里焼染付
56図-287 24図	磁器 碗	C区 K-21EY	口径 12.2 (推) 器高 4.95 底径 4.45	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 8/1灰白色 呉須 5PB 6/1青灰色より ややくすんだ青色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台登付と内面見込み輪状に釉ケズリと り 外面草花にトンボ	残存40% 反転復元 伊万里焼染付
56図-288 24図	磁器 皿	C区 K-21EY	口径 13.3 器高 3.0 底径 7.9	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 10Y 8/1灰白色 呉須 10BG 6/1青灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 玉縁状の口縁外面に9条の波状文 内面から外面体部まで施釉	残存40% 反転復元 伊万里焼染付
56図-289 17図	陶器 鉢	C区 K-21EY	口径 24.0 (推) 器高 12.1 底径 9.8 (推)	内面 2.5Y 5/2暗灰黄色 外面 5YR 3/2暗赤褐色 断面 10R 6/2灰赤色 白濁釉 2.5Y 8/1灰白色	マキアケミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 玉縁状の口縁外面に9条の波状文 内面から外面体部まで施釉	残存40% 反転復元

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	特徴	備考
59図-290 24図	磁器碗	D区 K-21A X 8-O X	口径 10.0 器高 4.8 底径 3.4	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 7/1明オリーブ 灰色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 外面梅花文	残存35% 反転復元 伊万里焼染付
59図-291	陶器碗	D区 K-22G A	口径 — 器高 2.6 (残) 底径 4.4 (推)	内面 5 Y 8/2灰白色 断面 5 Y 8/1灰白色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 高台以外は施釉 鉄釉による下絵付 内面見込みに3ヶ所の目跡	残存30% 部分反転 京焼
59図-292	土師器土鍋	D区 K-16V Y	口径 10.0 (推) 器高 8.2 (残)	内面 2.5Y R 5/1褐灰色 外面 2.5Y R 6/8橙褐色 断面 2.5Y R 5/6明赤褐色	マキアグミズビキ成形 内面指おさえの後ナデ 結晶片岩を含む	残存10% 反転復元
59図-294 17図	土師器鉢	D区 床土内	口径 28.8 器高 11.8 底径 13.0	内面 2.5Y R 3/3明赤褐色 外面 2.5Y R 4/2灰赤色 断面 2.5Y R 4/4にぶい赤褐色	マキアグミズビキ成形 焼成良好 スリ目 1単位15本	残存40% 反転復元 摺鉢
66図-300	土師器甕	G区 K-16K U 14-O O	口径 — 器高 10.3 (残) 底径 31.0 (復)	内外面 10Y R 7/3にぶい黄橙 色 断面 7.5Y R 7/4にぶい橙 色	マキアグミズビキ成形 内面ハケ目 外面タタキ目	
67図-302 24図	磁器碗	G区 側溝	口径 10.4 (推) 器高 6.0 底径 4.0	内面 7.5GY 8/1明緑灰色 外面 10GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 8/1灰白色	ミズビキ成形 ケズリ出し高台 焼成良好 全面施釉 外面草花文 高台内「大明年製」の呉須銘	残存50% 部分反転 伊万里焼
67図-303 24図	〃	G区 側溝	口径 10.1 (推) 器高 5.25 底径 4.4 (推)	内外面 7.5GY 8/1明緑灰色 断面 2.5GY 7/1明オリーブ 灰色	第67図-302と同じ	残存50% 反転復元 伊万里焼
67図-304	土師器皿	G区 18-O I	口径 7.8 器高 1.55 底径 6.55	内面 2.5Y R 5/3にぶい赤褐 色 外面 10R 6/4にぶい赤橙 色 断面 10R 5/2灰赤色	焼成軟 底部指おさえ	残存80%

表3 軒丸瓦・軒平瓦観察表

B区出土軒丸瓦

挿図番号 図版番号	出土地点	直径 (cm)	周縁幅 (cm)	周縁高 (cm)	内区径 (cm)	珠文数	巴敷・巻き 込み方向	色 調	焼 成	胎 土	備 考
13図-15 25図	K-22 J D、J E	(15.8)	0.9	1.0	(11.5)	(36)		N3/0暗灰色	軟	粗 (砂礫を含む)	複弁式蓮華文
13図-16 25図	K-22 M D	(13.5)	1.6	0.9	9.9			2.5Y8/2灰白色	中	やや粗 (砂粒を含む)	蓮子1+6 二次焼成 複弁式蓮華文
13図-17 25図	K-22 J C	15.3	1.0	0.8	12.7			10Y5/1灰色	硬	密	蓮子1+5 蓮弁8 複弁式蓮華文
13図-18	K-22 O G	(15.0)	1.0	0.7				N6/0灰色	硬	密	蓮弁(復)8 複弁式蓮華文
13図-19 25図	K-22 O F	15.1	1.0	0.7	12.9			N4/0灰色	中	密 (砂粒含む)	蓮子1+5 蓮弁8 複弁式蓮華文
13図-20	K-22 N G	(15.0)	1.0	0.7				N6/0灰色	軟	密	蓮弁(復)8 二次焼成 複弁式蓮華文
13図-21 25図	K-22 O G	15.2	1.2	0.6	12.7			10Y5/1灰色	硬	密	蓮子1+5 蓮弁8 複弁式蓮華文
13図-22	K-22 N F、N G	残6.7						N6/0灰色	軟	密 (砂粒含む)	蓮子1+5 蓮弁(復)8 二次焼成 複弁式蓮華文
14図-23	K-22 J C	(15.0)	0.9	0.4		(32)	3・左	2.5Y8/2灰白色	中	密	二次焼成
14図-24 25図	K-22 L D	(13.0)	1.9	1.2		(19)	3・左	5 Y8/2灰白色	軟	密	二次焼成 離れ砂
14図-25 26図	K-22 N F、N G	(15.0)	0.7	0.7		(28)	3・左	10Y R7/3にぶい黄橙色	軟	やや粗 (砂粒含む)	二次焼成 離れ砂
14図-26 26図	K-22 J D	(14.0)	2.1	0.5		(26)	3・左	10Y R7/3にぶい黄橙色	硬	やや粗	
14図-27	K-22 J E	(14.4)	0.7	0.7		(20)	3・左	N4/0灰色	硬	密	
14図-28	K-22 N G	(12.8)	1.8	0.5	(9.2)	(23)	3・左	10Y R7/3にぶい黄橙色	中	やや粗	二次焼成
14図-29 26図	K-22 J C、J D	(15.4)	1.0	1.0	(13.5)	(22)	3・左	2.5Y8/2灰白色	硬	やや粗 (砂粒含む)	二次焼成
41図-232	K-22 J D	残7.1	2.1	0.5		(13)	3・左	N5/0灰色	硬	密	
41図-233 26図	K-22 K F	14.3	2.3	0.4	9.5	16	3・左	N6/0灰色	硬	密	
41図-234 27図	K-22 K D	13.6	2.2	0.5	9.0	13	3・左	N5/0灰色	中	密	

※( )は推定

插图番号 图版番号	出土地点	直径 (cm)	周縁幅 (cm)	周縁高 (cm)	内区径 (cm)	珠文数	巴数・卷き 込み方向	色 調	焼 成	胎 土	備 考
41图-235 27图	K-22 L F	13.5	1.8	0.4	9.9	13	3・左	10Y6/1灰色	中	密	離れ砂
41图-236 27图	K-22 J C、J D	13.6	2.0	0.6	9.6	13	3・左	10Y7/1灰白色	軟	密	離れ砂
41图-237 27图	K-22 K D	13.5	2.0	0.4	9.5	13	3・左	N5/0灰色	硬	密 (砂粒含む)	
42图-238 27图	K-22 J C、J D	13.3	1.4	0.9	9.8	13	3・左	N5/0灰色	硬	やや密 (砂粒含む)	
42图-239	K-22 J D	13.4	0.8	0.4	9.8	13	3・左	10Y6/1灰色	硬	密	離れ砂
42图-240	K-22 J D	13.3	2.0	0.4	9.3	13	3・左	10Y6/1灰色	中	密 (砂粒含む)	離れ砂

※( )は推定

### C区出土軒丸瓦

插图番号 图版番号	出土地点	直径 (cm)	周縁幅 (cm)	周縁高 (cm)	内区径 (cm)	珠文数	巴数・卷き 込み方向	色 調	焼 成	胎 土	備 考
55图-281 26图	K-22 I C		0.9	0.8	12.7	(36)		N3/0暗灰色	中	粗 (砂粒含む)	複弁式蓮華文
55图-282 26图	K-22 I C		1.2	0.6	11.2	(20)		N6/0灰色	軟	やや粗	二次焼成 単弁式蓮華文
55图-283	K-22 H B、H C	13.8	2.4	0.7	9.0	13	3・左	N6/0灰色	硬	やや密 (砂粒含む)	
55图-284 27图	K-22 H B、H C	13.6	2.3	0.6	9.2	13	3・左	N4/0灰色	硬	やや粗 (砂粒含む)	

※( )は推定

### B区出土軒平瓦

插图番号 图版番号	出土地点	上弦幅 (cm)	下弦幅 (cm)	周縁高 (cm)	周縁幅 (cm)		色 調	焼 成	胎 土	備 考
					上	下				
15图-30 28图	K-22 M F	残14.2	残18.2	0.4	0.7	0.7	2.5Y8/3淡黄色	硬	密	二次焼成
15图-31 28图	K-22 J C	残17.2	残18.6	0.4	0.9	0.5	N4/0灰色	硬	密	凹面離れ砂
15图-32 28图	K-22 N G、N F	残13.0	残13.5	0.4	0.6	0.6	2.5Y8/3淡黄色	硬	密	二次焼成
15图-33	K-22 M D	残8.4	残6.4	0.4	0.6	0.7	2.5Y8/3淡黄色	硬	密	二次焼成
15图-34 28图	K-22 J E、J F	残8.4	残9.9	0.4	0.4	0.5	5 Y5/1灰色	硬	密	二次焼成
15图-35	K-22 N G	残5.9	残5.5	0.4	0.4	0.7	N4/0灰色	軟	やや粗 (砂粒を含む)	
15图-36	K-22 N F、N G	残12.6	残2.5	0.6	0.9	0.7	2.5Y8/3淡黄色	軟	やや密 (砂粒を含む)	二次焼成

挿図番号 図版番号	出土地点	上弦幅 (cm)	下弦幅 (cm)	周縁高 (cm)	周縁幅 (cm)		色 調	焼 成	胎 土	備 考
					上	下				
15図-37 28図	K-22 OH、OG	24.2	23.3	0.4	0.3	0.5	N5/0灰色	硬	やや密	二次焼成 凹面離れ砂
16図-38 28図	K-22 JC、JD	残12.4	残15.1	0.5	0.8	0.8	N4/0灰色	中	密 (砂粒を含む)	二次焼成
16図-39 28図	K-22 NG、NF	残11.0	残11.4	0.5	0.4	0.3	2.5Y8/3淡黄色	中	密	二次焼成 凹面離れ砂
16図-40 28図	K-22 JC	18.9	20.4	0.8	1.1	1.0	N4/0灰色	硬	やや密	二次焼成
16図-41 28図	K-22 LD、KD	残12.1	残13.2	0.3	0.7	0.8	N5/0灰色	硬	密 (砂粒を含む)	
16図-42 28図	K-22 NF	残13.2	残14.9	0.4	0.7	0.7	N4/0灰色	軟	粗 (砂粒を含む)	
16図-43 28図	K-22 JC	残20.2	残16.4	0.45	1.2	1.0	2.5Y8/3淡黄色	硬	やや粗 (砂粒を含む)	二次焼成
16図-44 28図	K-22 JC	残12.5	残9.5	0.6	0.5	0.7	N4/0灰色	硬	やや粗 (砂粒を含む)	
16図-45 28図	K-22 LD	残9.3	残8.6	0.3	0.9	0.7	10Y4/1灰色	軟	やや粗 (砂粒を含む)	
16図-46	K-22 NF	残8.9	残9.4	0.4	0.6	0.7	2.5Y7/3浅黄色	中	やや密	二次焼成
16図-47	K-22 JC、JD	残12.5	残12.4	0.5	0.8	0.8	10YR7/3にぶい黄褐色	硬	密	二次焼成
16図-48	K-22 JE、JF	残9.5	残6.9	0.5	1.1	0.8	2.5Y7/3浅黄色	軟	粗 (砂粒を含む)	二次焼成
16図-49	K-22 NE	残10.5	残11.2	0.3	1.0	0.9	10Y3/1オリーブ黒色	軟	やや密	
19図-57 29図	K-22 OG	25.0	24.8	0.4	0.6	0.9	N5/0灰色 凹面 5Y8/3淡黄色	硬	密	
43図-241	K-22 JE	残11.4	残16.0	0.4	0.8	0.8	N5/0灰色	硬	やや粗 (砂粒を含む)	
43図-242 28図	K-22 JC	23.6	23.5	0.4	0.8	0.8	N4/0灰色	硬	やや粗	
43図-243	K-22 ME	残16.3	22.4	0.4	0.8	0.8	N4/0灰色	硬	やや粗	
43図-244 28図	K-22 LD、KD	21.9	21.8	0.3	0.5	0.4	N4/0灰色	軟	やや粗	凹面離れ砂
43図-245	K-22 MF	23.1	22.9	0.3	0.7	0.4	N5/0灰色	軟	密	



表4 丸瓦・平瓦観察表

B区出土丸瓦

挿図番号 図版番号	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	焼成	胎土	備考
17図-50 30図	K-22 OH	残43.0	残18.8	2.1	2.5Y4/1黄灰色	軟	密	
17図-51 30図	K-22 NG	残39.9	残17.5	1.9	外・N4/0灰色 内・N8/0灰白色	中	密	
18図-52 30図	K-22 JC	32.0	残14.5	1.9	N4/0灰色	硬	密	
18図-53 30図	K-22 IC	29.7	残14.4	2.0	7.5Y5/1灰色	中	やや密	
18図-54 30図	K-22 NG	30.0	残14.7	2.4	N6/0灰色	硬	やや粗 (砂粒を含む)	二次焼成
18図-55 30図	K-22 JC	31.7	14.5	2.5	5Y4/1灰色	硬	密	
19図-58	K-22 OG	残23.6	残17.8	2.3	10Y4/1灰色	軟	密	二次焼成
44図-248 29図	K-22 JC、JD	27.3	13.6	2.0	N5/0灰色	硬	密	
44図-249 29図	K-22 KE	23.8	13.6	1.6	N4/0灰色	硬	密	
44図-250 29図	K-22 JC	23.8	13.9	1.6	N5/0灰色	軟	やや粗 (砂粒を含む)	

B区出土平瓦

挿図番号 図版番号	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	焼成	胎土	備考
19図-56	K-22 OH	残26.0	残22.9	2.0	N4/0灰色	硬	やや粗 (砂礫を含む)	
20図-59 29図	K-22 OG、PG	残38.6	残25.1	2.4	10Y6/1灰色	中	やや密	凸面観目
20図-60 29図	K-22 NG	37.6	残23.8	2.6	2.5Y4/1黄灰色	軟	密	

表5 丸瓦・平瓦(文字瓦)観察表

B区出土丸瓦

挿図番号 図版番号	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	焼成	胎土	備考
46図-257 32図	K-22 JC	残11.1	残8.7	2.1	5B3/1暗青灰色	中	やや密 (砂粒を含む)	大永三年 四月 (1523年)

## B区出土平瓦

挿図番号 図版番号	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	焼成	胎土	備考
46図-255 32図	K-22 KF	残19.1	残11.5	1.9	N4/0灰色	硬	密	享保十年 (1725年)
46図-256 32図	K-22 KF	残23.2	残19.0	1.7	N5/0灰色	硬	密	享保十年 巳 六月十六日 (1725年)

表6 道具瓦観察表  
B区出土道具瓦

挿図番号 図版番号	出土地点	直径 (cm)	周縁幅 (cm)	周縁高 (cm)	内区径 (cm)	巻き込み 方向	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	焼成	備考
21図-61 31図	K-22 JB	15.4	2.0	0.8	11.9	左	残23.1	15.4	3.1	10Y8/1灰白色	中	珠文17個、ヘラ記号 瓦当離れ砂、凹面は クシ目状の工具調整
21図-62 31図	K-22 NF	14.5	2.6	0.8	9.3	左	残9.1	14.5	2.4	2.5Y8/3淡黄色	軟	珠文24個 胎土密
21図-63	K-22 KE						残20.3	残12.0	1.8	N5/0灰色	硬	凸面ヘラ記号 凹面クシ目調整 胎土やや密
43図-246	K-22 NF						残15.0	残15.2	2.0	2.5GY2/1黒色	軟	凹面はクシ目状の 工具による調整 胎土密
44図-247 29図	K-22 OG、PG						31.3	残20.2	2.8	N6/0灰色	軟	胎土やや密 (砂粒を含む)
45図-251 31図	K-22 JD						22.9	残13.6	1.7	N5/0灰色	硬	胎土やや密 (砂粒を含む)
45図-252	K-22 KE						残14.9	残12.4	1.7	N5/0灰色	硬	胎土やや密

表7 石製品一覧表

石 白

挿図番号 図版番号	種類	直径 (cm)	高さ (cm)	供給口径 (cm)	皿径 (cm)	重さ (kg)	分画×溝	残存立	石質	出土地点	備考
47図-258 33図	石白	30.5	14.0	4.0	22.8	16.7	8×4	60%	和泉砂岩	B区 K-22L F	石垣に転用 上白、未成品 フルギアナ有
47図-259 33図	石白	(28.8)	13.7	4.0	20.2	13.3	8×4	60%	〃	B区 K-22L F	上白 未成品 フルギアナ有
47図-260 33図	石白	29.3	13.9	4.0	20.5	10.0	8×4	50%	〃	B区 K-22J F	上白 未成品 フルギアナ有
47図-261 33図	石白	31.5	11.0	4.5	23.4	4.3	8×4	40%	〃	B区 K-22J E	上白 成品 フルギアナ有
48図-262 33図	石白	(30.0)	14.5		(20.0)	9.5	8×4	50%	〃	B区 K-22M E	上白 未成品 フルギアナ有
48図-263 33図	石白	(26.3)	11.8	2.5	(20.4)	6.0	8×5	50%	〃	B区 K-22J D	上白 成品
48図-264 33図	石白	(29.4)	14.5	(4.0)	(22.2)	7.5		30%	〃	B区 K-22L F	上白 未成品 フルギアナ有
48図-265 33図	石白	(29.2)	13.2		(23.8)	8.0	6×4	40%	〃	B区 K-22J F	上白
48図-266 34図	石白	29.0	12.8			10.5	8×4	50%	〃	B区 K-22K F	下白 未成品
48図-267 34図	石白	40.6	13.6			23.0	8×9	60%	〃	B区 K-22L F	石垣に転用 下白
63図-296 34図	石白	21.6	12.0	3.0	(17.2)	3.7		50%	〃	F区 K-16R V	上白 未成品
63図-297 34図	石白	28.0	11.5			8.0	8×4	50%	〃	F区 K-16R W	下白 未成品
63図-298 34図	ミソ白	19.8 38.9	13.2 10.0		34.2	17.0		85%	〃	F区 K-16R W	下白 未成品
63図-299 34図	石白	29.0	12.5			19.0		100%	〃	F区 K-16R V	未成品
68図-305 34図	ミソ白	22.3 40.3	9.3 9.2		35.4	13.5		60%	〃	G区 K-16L S	下白 未成品
68図-306 34図	石白	27.2	15.2			14.8		80%	〃	G区 K-16L S	下白 未成品

※( )は推定

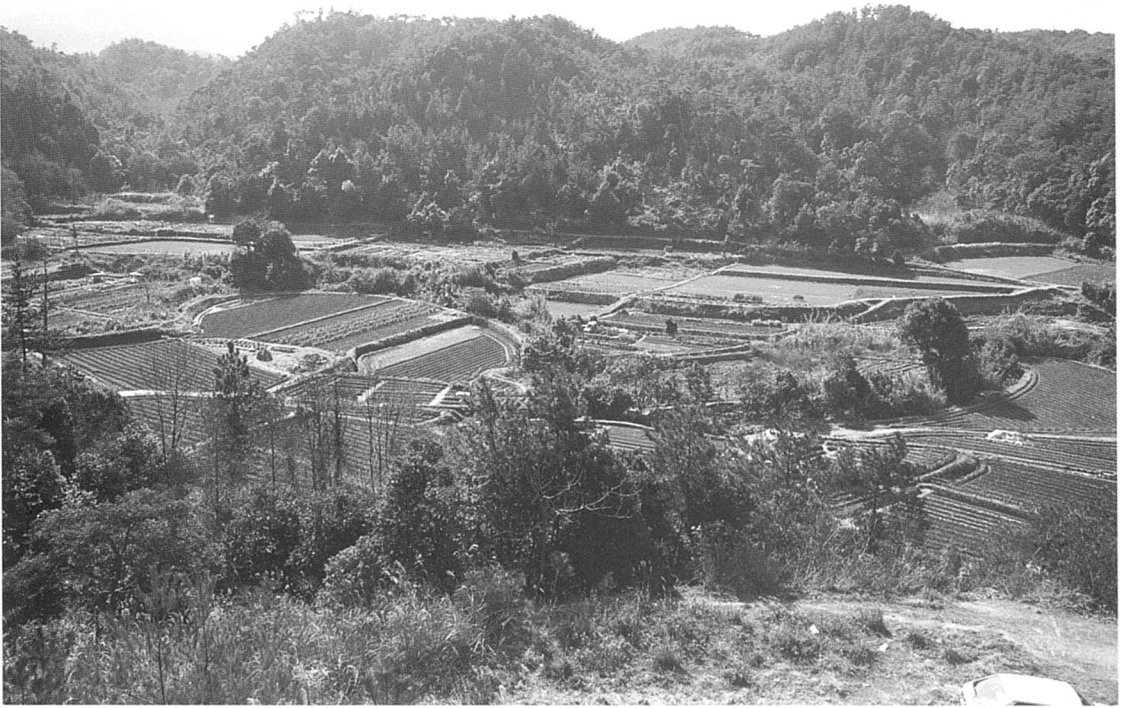




# 版 图



阪南丘陵航空写真



金剛寺遺跡全景（東から）

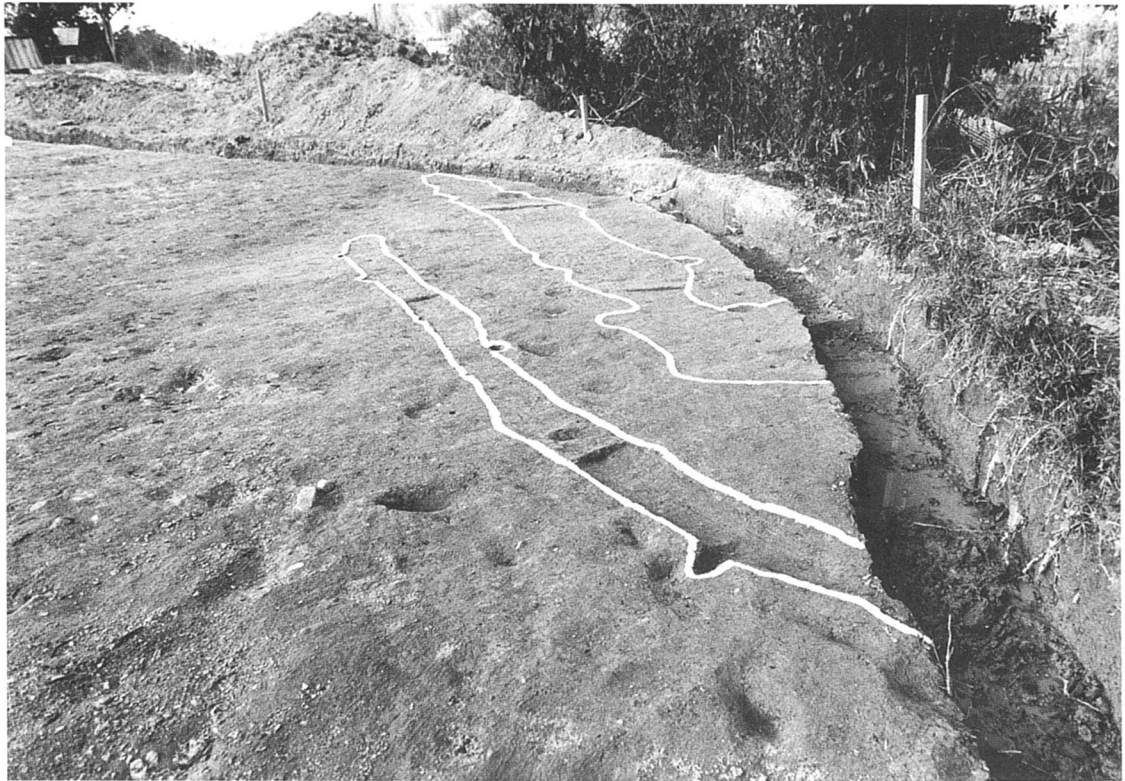


調査区全景（北から）





調査区全景（南から）



A区1・2-OZ（南から）